

《資 料》

中小企業で働く (2017 年)

——2017 年度における 4 年生以上の大学生を対象とした調査から——

関 智 宏

- I はじめに
- II データと分析方法
- III 分析および分析結果
 - III-1. 中小企業で「働きたいと思わない」グループの分析
 - III-2. 中小企業で「働きたいと思う」グループの分析
 - III-3. 中小企業で「働きたいと思わない」学生たちが「働きたいと考える中小企業」
- IV おわりに

I はじめに

企業による人材確保が困難な状況がこの数年続いている。売手市場が優位の状況が続くなかで、大企業は人材確保のためにさまざまな手段を講じているが、中小企業は、大企業と比べて人材確保がいっそう困難を極めている。

中小企業は国家ないし地域における経済・社会の主役であり、人々の生活や文化をさまざまな諸点で支えている。中小企業の人材確保が円滑に進まなければ、事業の前進はおろかその継続も困難となる可能性がある。

こうした実情を踏まえ、本稿は、中小企業における人材確保の円滑化につながりうる基礎データを提示することを目的に、拙稿 (2017 a) を踏まえ、大学生を対象とした調査から得たデータの分析を行う。具体的には、中小企業を念頭に置き、中小企業で働く人材、とくに、大学生が中小企業で働くということに対していかに考えているかを、調査から得たデータをもちいて分析を行う。なお本稿は、調査内容に基づき、分析方法、分析、その結果を示すことにとどめる。また本稿でもちいるデータが4年生以上の大学生を対象として得たものであることから、「働く」と表現する場合には「ある企業に就職する」という認識が強く含まれていることに留意されたい。

II データと分析方法

本稿でもちいるデータは、2017 年 11 月 8 日に、同志社大学商学部設置されている

秋学期開講科目「中小企業論2」を履修している大学生に質問したさいの回答に基づいている。回答した学生数は、394名であった。

これらの学生に対して、以下の3つの問を尋ねた。1つは、「あなたは将来的に大企業よりも中小企業で働きたいと思いますか。」(問1)である。ここでは、「そう思う」(5点)から「そう思わない」(1点)までの5点尺度で尋ねた(これら以外は、「どちらかと言えばそう思う」(4点),「どちらとも言えない」(3点),「どちらかと言えばそう思わない」(2点)とした)。2つは、「問1のように答えたのはなぜですか。その理由をできるだけ詳しく教えてください。」(問2)である。3つは、「あなたが働きたいと考える中小企業とはどのような中小企業ですか。できるだけ詳しく教えてください。」(問3)である。

問1の回答結果を示したものが、表1および表2である。表1によれば、中小企業で働きたいと思わない学生が、全体の46.7% (「そう思わない」+「どちらかと言えばそう思わない」の和)となっている。また、中小企業で働きたいと思う学生が、全体の17.2% (「そう思う」+「どちらかと言えばそう思う」の和)となっている。「どちらとも言えない」は36.0%となっている。表2によれば、中小企業で働きたいと「そう思う」を5点,「そう思わない」を1点としたさいに、全体の合計点の平均をとったところ、2.64であった。中央値が3であるために、全体としては、回答割合の結果からもわかるように、中小企業で「働きたいと思わない」学生の方が、「働きたいと思う」学生よりも人数が多いことがわかる。

問1の回答結果をもとに、回答者の属性をみたものが、表3~5である。表3と表4は、回答者の属性を性別にみたものである。性別にみた回答割合は男性の方が多い(表3)。しかしながら、中小企業で働きたいとどのように思うかについては、統計的な差はみられなかった(表4)。

次に表5は、回答者の属性を学年別にみたものである。以下では、4年生以上を対象とした分析を行う。4年生以上のみを取りあげて別に分析を行ったのは、進路先がほぼ決まっていると考えられることから、大学を卒業して働きうる人材に、4年生以上の大

表1 問1の度数分布表

	度数	パーセント	有効 パーセント
1 そう思わない	45	11.4	11.4
2 どちらかと言えばそう思わない	139	35.3	35.3
3 どちらとも言えない	142	36.0	36.0
4 どちらかと言えばそう思う	47	11.9	11.9
5 そう思う	21	5.3	5.3
合計	394	100.0	100.0

表2 問1の記述統計量

度数	最小値	最大値	平均値	標準 偏差
394	1	5	2.64	1.009

表3 問1と性別のクロス表

	性別		合計
	1 男性	2 女性	
1 そう思わない	28	17	45
2 どちらかと言えばそう思わない	89	50	139
3 どちらとも言えない	69	73	142
4 どちらかと言えばそう思う	21	26	47
5 そう思う	19	2	21
合計	226	168	394

表4 性別の差の検定

性別	度数	平均値	標準偏差	平均値の標準誤差
1 男性	226	2.62	1.086	.072
2 女性	168	2.68	.898	.069

	等分散性のための Levene の検定		2つの母平均の差の検定						
	F 値	有意確率	t 値	自由度	有意確率 (両側)	平均値 の差	差の 標準誤差	差の 95% 信頼区間	
								下限	上限
等分散仮定	6.237	.013	-.574	392	.566	-.059	.103	-.261	.143
等分散仮定しない			-.591	387.527	.555	-.059	.100	-.256	.138

表5 問1と学年のクロス表

	学年						合計
	2	3	4	5	6	7	
1 そう思わない	2	32	8	3	0	0	45
2 どちらかと言えばそう思わない	6	118	12	2	1	0	139
3 どちらとも言えない	8	112	14	7	0	1	142
4 どちらかと言えばそう思う	1	32	10	3	0	1	47
5 そう思う	4	9	5	3	0	0	21
合計	21	303	49	18	1	2	394

学生がもっとも近く、働くということに対するより具体的かつ現実的な見解をデータとして集めることができていると考えたためである。なお、4年生以上の大学生は、70名（4年生49名、5年生18名、6年生1名、7年生2名）であった。

このデータをもちいて、以下で分析を行っていく。

Ⅲ 分析および分析結果

分析にもちいるのは、KH Coderである。このソフトをもちいることで、自由記述に基づいたさまざまな分析を行うことができる。KH Coderでは、最小単位での語句を自

由記述から抽出するために、本来的に1つの用語としてもちいていながらも、別々の語句として抽出される。これを処理するために、複合語の抽出が必要となる。また、抽出された語句のなかには、出現数は高いものの、分析とはほぼ無関係の語句も抽出される。これを排除するために、除外する語句の選定が必要となる。これらの作業を踏まえたうえで、共起ネットワークの分析を行う。

分析は、まず、問1の中小企業で働くことにかかる意識に関する項目から、中小企業で働きたいと思わないグループ（有効回答数26）（「そう思わない」（1点）か、あるいは「どちらかと言えばそう思わない」（2点））と、中小企業で働きたいと思うグループ（有効回答数22）（「そう思う」（5点）か、あるいは「どちらかと言えばそう思う」（4点））の2つのグループを特定化し、それらグループごとに分析を行う。そして、中小企業で働きたいと思わないグループ（有効回答数26）を対象を絞り、問3の働きたいと考える中小企業の分析を行う。

Ⅲ-1. 中小企業で「働きたいと思わない」グループの分析

問1で「1」あるいは「2」を回答した、中小企業で「働きたいと思わない」グループを特定し、なぜ「働きたいと思わない」のか、その理由を尋ねた問2のデータをもちいて分析を行う。

まず、複合語を強制的に抽出した。これを示したものが、表6である。そして、分析を行ううえで無関係と判断した「思う」、「考える」、「感じる」の3つを抽出語の対象から外した。これらの作業を踏まえた抽出語を示したものが、表7である。総抽出語数は2,704 (1,071)、異なり語数は589 (441)（文123, 段落25, H5 26）であった。

以上を踏まえて、共起ネットワークの分析を行った。この結果を示したものが、図1

表6 問2 複合語一覧（2以上）（中小企業で働きたいと思わない）

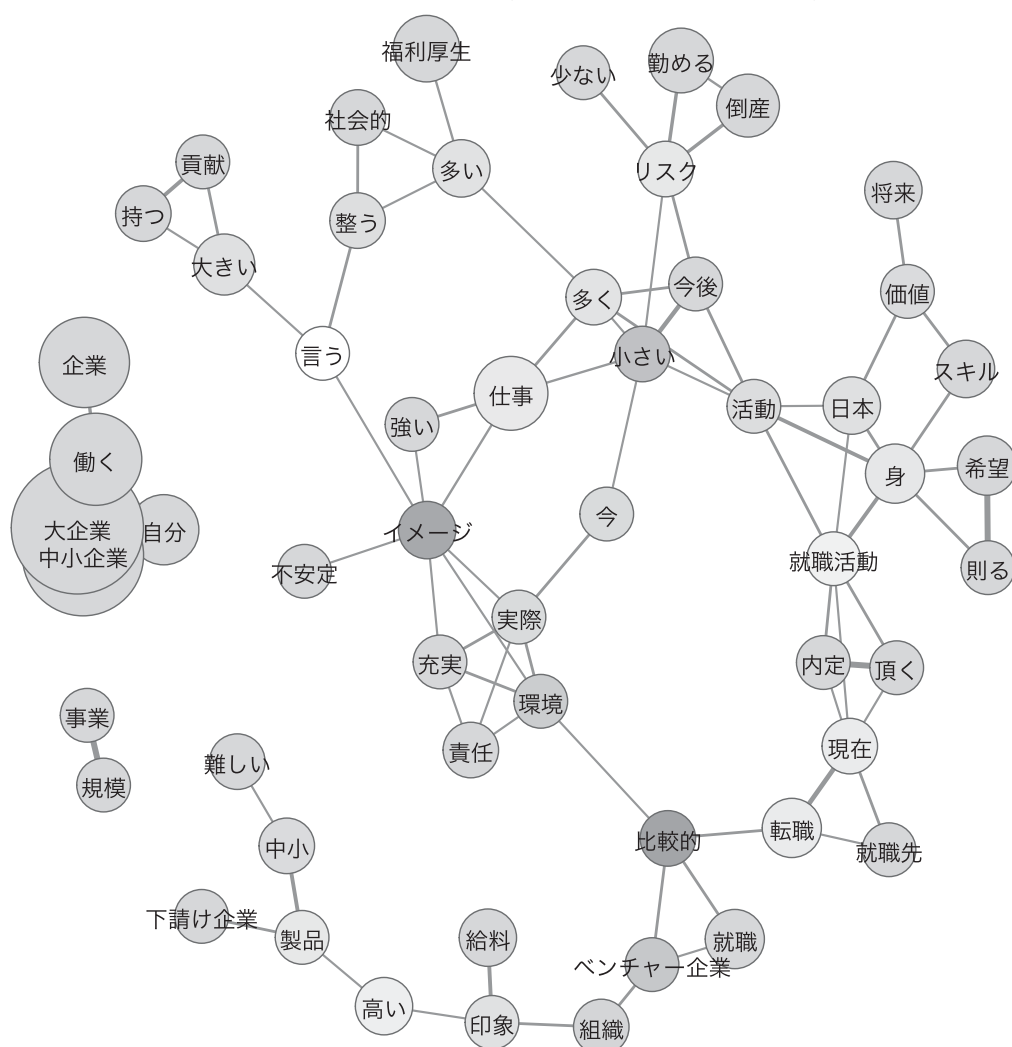
複合語	出現数	複合語	出現数
大企業	44	裁量権	2
中小企業	38	入社後	2
福利厚生	10	安定的	2
ベンチャー企業	3	給料水準	2
就職先	3	ファーストキャリア	2
下請け企業	3	人生設計	2
社会的	3	就職活動	2
		魅力的	2
		可能性	2

1 4年生以上の大学生以外の大学生の回答はもちろんのこと、問1で「どちらとも言えない」（3）と答えた回答を含めた分析については、本稿でとりあげることはできなかった。このデータを含めた検討については、別稿にて行うことにしたい。

表7 問2 抽出語一覧（中小企業で働きたいと思わない）

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
大企業	46	就職先	3	人生	2
中小企業	40	充実	3	人生設計	2
働く	24	少ない	3	世間	2
企業	23	製品	3	先	2
仕事	14	則る	3	選択	2
自分	12	頂く	3	増す	2
福利厚生	10	内定	3	体力	2
勤める	9	不安定	3	待遇	2
倒産	8	さまざま	2	大阪	2
大きい	7	キャリア	2	知る	2
希望	6	シフト	2	天然	2
就職	6	ファーストキャリア	2	得る	2
身	6	メリット	2	特に	2
転職	6	悪い	2	入社	2
イメージ	5	安定的	2	入社後	2
スキル	5	意味	2	認める	2
給料	5	一定	2	不安	2
高い	5	一般	2	父親	2
将来	5	可能性	2	部分	2
場合	5	会社	2	福祉	2
多い	5	回答	2	勉強	2
日本	5	開発	2	魅力的	2
リスク	4	活	2	面	2
現在	4	関わる	2	容易	2
持つ	4	逆	2	要素	2
社会的	4	求める	2	理由	2
小さい	4	給与	2	良い	2
整う	4	給料水準	2	劣る	2
責任	4	供給	2	1つ	1
組織	4	経営	2	2つ	1
多く	4	経験	2	たくさん	1
中小	4	経済	2	でき上がる	1
難しい	4	決して	2	ひとつ	1
比較的	4	決定	2	もう一度	1
ベンチャー企業	3	元請け	2	やり直す	1
安定	3	言える	2	インターン	1
印象	3	幸せ	2	インパクト	1
下請け企業	3	考慮	2	エネルギー	1
価値	3	講義	2	ガス	1
活動	3	合う	2	キーワード	1
環境	3	今回	2	ゲスト	1
規模	3	裁量権	2	サラリーマン	1
強い	3	資源	2	スタート	1
言う	3	事実	2	スピーカー	1
貢献	3	軸	2	チャンス	1
今	3	社会	2	ニュース	1
今後	3	周り	2	ノウハウ	1
事業	3	信頼	2	ハードル	1
実際	3	新しい	2	バイタリティ	1
就職活動	3	人	2	ビジネス	1

図1 問2 共起ネットワーク (中小企業で働きたいと思わない)



である。また、なぜ「働きたいと思わない」のか、その理由を尋ねた問2のデータのなかで特徴的な表現に下線を引いた。これを示したものが、表8である。

表8 中小企業で働きたいと思わないのはなぜか

父親が勤めていた企業が、小さい頃に倒産した経験があり、できるだけリスクが少ない企業に勤めたいと考えている。また一般的に資本のある大企業の方が福利厚生がしっかりしており、今後の生活費等を考えた際に自ずとこの結論に至った。

大小問わず企業で働くつもりがないからです。社長として個人でやっていきます。

小さい組織は自己成長に最適な環境だと思うからです。小さな組織で比較的大きな裁量権をもって仕事をする、そしてその責任も自分にくる。そんな組織で働くことが、会社を離れた後の人生で役立つと思いました。大企業は入社後から退社まで働いてやっとメリットが得られる組織だと思います。今となっては、ベンチャー企業の方が給料が高いし、福利厚生も充実してると思います。実際に1年間大阪のIT企業でインターンしていて、普通のサラリーマンより給料が良かったことが印象強くてなりません。給料も福利厚生もよく、離職後のキャリアにつながる仕事ができる。それが中小企業に思い描く僕のイメージですが、おそらく大阪・東京の中小企業の一部しかあてはまらないでしょう。こういった企業に限って、就職したいと思います。

私は4年生で既に就職先が決定しています。従業員の少ないベンチャー企業に就職予定で、ある意味中小企業を選択した結果にはなりましたが、「将来」というキーワードを考慮した場合、10年先に自分がそこで働き続けているビジョンが見えませんでした。もともとベンチャー企業で能力をつけてから比較的安定した企業へ転職しようと考え現在の就職先を決定したため、やはり将来のことを考えると大企業の第一線で活躍できるようにしたいと考えます。
自分のキャリアスタートとしてまずは大企業で働いてみたいという気持ちがあるから。
中小企業には中小企業なりの技術力や柔軟性があり魅力を感じる部分もありますが、やはり体力的な不安要素や福利厚生に関しての待遇においては大企業に劣る部分が多いため、安定的に働きたいと考える自分としては必ずしも中小企業で働きたいとは思いません。
中小企業が決して大企業に劣っているというわけではないが、就職するにあたって、給料や安定性、事業規模などは考慮する要素となり、その点に関して大企業の方が中小企業より勝っているということは世間一般の認識であると思われる。そして、私自身もそう思うので、やはり中小企業より大企業の方で働きたいと思う。
大企業に内定を頂いております。大企業を選択したのは、入社後及び、20代を勉強や大企業でしか学べないノウハウを学ぶためでした。
今回の授業を受けていても思ったことが、元請け企業の下請け企業に対する立場の強さがいざ、中小企業で働くとなった時にしんどいのではないかと思う。下請け企業は品質、価格、納期をより良い状態で大企業に売り込まないといけないのでもしかしたらかなり無理をしなければならない時もあると思うからです。そして新しい製品を開発して元請け側に回るといのはそういう中小を探し、就職するという前段階ののちそこから下請け企業としての仕事をしながら新製品の開発をするといのはかなりハードルの高い作業だと思います。私にはそのようなバイタリティはないし、そこまで先を見通した就活をすることは難しいと考え、最初からでき上がっていて名前の売れている有名な大企業は失敗はないと思うのでそのような企業に就職したいと考えます。
給料水準や福利厚生を鑑みると、やはり大企業の方が整っている場合が多いと考えるから。中小企業は給料水準が低く、福利厚生も整っていないというわけではないが、大企業は社会的な知名度も高く、世間の注目を集めやすいという点で改善される余地が多いのではないかと思う。
大企業で働いていたという事実が、ある一定の信頼を生み、転職する際にも有利かつ、不安定な経済状況下でも生き残りやすいから。大企業から中小企業へというシフトは比較的容易なのに対し、中小企業から大企業へのシフトは難しい。従って、ある一定の信頼を得るためにも、大企業で勤めることのメリットを享受したい。
中小企業が悪いという訳ではないが、ファーストキャリアとしての選択肢には向かないと思います。なぜなら、私は将来経営者になりたいと思っており、その下積みとしては教育・研修プログラムが充実している大企業に入社しビジネスを学習したうえで起業したいからです。また、大企業であっても倒産の危険性が高いのにファーストキャリアで中小は考えられない。中小の中でもメーカーの気質・下請けではなく独自の製品などを持っていたら別だが。
大企業でやりたいことが特になければ特に求めないから。
大企業の方が中小企業よりも体力があり、倒産のリスクが小さいため大企業に勤めた方が長い目で人生設計をすることができると考えているためです。もし中小企業に勤めたとしてその企業が途中で倒産すれば、もう一度新しい職を求めて人生設計をやり直さなければならないことには危機感を感じます。また、本日の講義でもあったように海外取引が今後ますます増加するため、多くの日本の中小企業の将来は楽観視できるものではないと感じます。しかし、例えば大企業であっても倒産のリスクがないとは言えないため、ただ働くだけでなく働きながら自分の社会的価値が増すようなスキルを身につけてもしもの事態に備えるべきだと考えています。私は先の就職活動ではこのスキルが身につくかといった点を重視し、若いうちから裁量権が多い大企業に絞って活動しました。そのため、大企業と中小企業を比較すれば私は大企業に勤めたいと考えていますが、仕事を通じてスキルが身につかなかったりその会社でしか通用しないスキルしか身につかない仕事を大企業とするのであれば、社会的に価値のあるスキルが身につく中小企業で勤めた方がかえって安定的な人生を歩む近道になるとも考えています。そのため私はどちらかといえば大企業で働きたいと回答しました。
大企業に憧れがあり、周りからも認められやすい。圧倒的な資金力で中小企業ではなし得ない力で社会にインパクトを与えることができる。業界自体が不安定であっても少なくとも自分が勤めている間には倒産のリスクは少ないと思うから。また、昇進の幅が広い。入社するにもそれなりの過程を通過しなくてはならないことから、優秀な人材が集まっていると思うから。各地に支社があるから。さまざまな部署に分かれているため、ひとつのことに集中できる。一方で、中小企業も大企業に比べ小回りが効くことから変化を感じやすく、また顧客に近いイメージがあるので魅力的である。しかし、役員以下では給与が横ばいのイメージがある。

大企業のほうが福利厚生が手厚い印象がある。中小企業より大企業のほうが給料が高い印象がある。
大きく分けて2つの理由がある。1つは収入や福祉面だ。両親や親戚、皆が大企業の部類の企業に勤めている。そのため、 <u>企業年金や福祉制度などがしっかりと整っており</u> 、逆に中小企業だとそれはなかなか難しいといわれた。2つめは簡単に言えば虚栄心だ。やはり、誰もが知っており、社会的に認められた企業の一員として働きたいし、それはモチベーションにもつながると思う。
企業の将来が不安だし、金もそれほど儲けない。自分は中小企業で働くより価値があると思うこともある。実際日本に留学まで来て中小企業に入るのは今まで勉強に使ってる費用がもったいない
周りの評価を気にするので、名の知れた企業で働きたい。
私の希望とは合いにくいと考えるからです。私は就職活動を終えた身なのですが、就活時は、エネルギー資源を自給できない日本社会に対して石油・天然ガスを供給することで日本を支える。という軸に則って活動し、幸いなことに、希望していた企業から内定を頂くことができました。ですので、中小企業で働く可能性があるとすれば、私が転職をする場合になると考えます。しかし、私の軸に則ると私が希望する企業は、天然資源の供給を通して国家経済に対して責任を有する企業ということになります。そのため、私の希望を叶えるに適した企業はほぼ必然的に大企業であることになると考えています。私はこの希望を現在のところ変えるつもりはなく、転職等を行うことがあろうともそれに則って企業を選びたいと考えています。そのため、中小企業は私の希望とは合っていないと考えられるため、働きたいとは思わないと回答させていただきました。
就職について家族や父親と相談した時、「せっかく同志社にいるのだから、わざわざ大企業に行くチャンスより中小企業を優先することはない。大企業から中小に転職するのは比較的容易だが、その逆はとても難しい」と聞いたからです。11月1日のゲストスピーカーさんによる講演で中小企業支援機構など、現在の日本が中小企業にとって経営をしやすい環境になりつつあることはわかりましたが、現時点では大企業の二の次という考え方をしています。
大企業の方が待遇、給与、ブランド、できることの大きさなどが大きいから。責任の大きさも違う。
先生の講義や就職活動中の企業研究などで中小企業に対してのイメージは決して悪くはありません。さまざまな業種や仕事内容もあって、世界に大きく貢献している企業がある事も知りました。しかし、現在内定を頂いた企業が大手であり、そこで働いていく覚悟を持っているので、中小企業の方が働きたいと考えることはできません。しかし、上記にもあるように中小企業にも強い関心があります。そのため、就職先で思ったような仕事ができなかったり、そこよりも魅力的な企業、仕事があれば転職することはあるかもしれません。そのため、今回は「どちらかと言えばそう思わない」にさせていただきました。
中小企業であれば、少人数制のため、一人一人の仕事は重く、責任は増しますがその分やり甲斐を感じることが出来ます。さらに、大企業ではなかなか通らない意見が中小企業では通りやすかったり、仕事に自分の意思が反映されやすく、自分のやりたいことをできる点では中小企業の方がいいと思います。しかし、いくらやり甲斐があり、自分のやりたいことができたとしても倒産してしまつては意味がありません。実際、中小企業は数え切れないほどありますが、その多くが倒産しているというのが事実です。中小企業にいいところもたくさんありますが、景気に左右されやすく不安定なので、やはり安定さをとってどちらかと言えば大企業だと思います。さらに福利厚生面でみても、一概には言えませんが中小企業は福利厚生の管理が行き届いておらず残業代が支払われない、有給が取りにくいなどの問題が多く発生しているイメージがあります。その点、大企業であればそのようなことがあればニュースに取り上げられやすいため慎重になり、福利厚生面から考えても働きやすい環境が整っていると思います。そのため、私はプライベートと仕事、どちらも充実させたいので大企業だと思います。
中小企業で働いた場合、自分に関わる事業の規模が小さくなってしまふ可能性が大きくなってしまふためです。私は働くのであれば、常にやりがいを持って働きたいと考えています。その理由は私はやりがいを持って取り組んだ方が効率良く仕事ができると今までの部活動での経験から感じました。そのため、今後40年近く関わることになる仕事においてもやりがいをもって仕事をしたいと考えています。そのように考えた時に、私がやりがいをより感じれるのは、自分がより多くの人の幸せに貢献できた時でした。そのため、より多くの人の幸せに貢献することのできるのは、より事業の規模が大きい方がいいと考え、大企業志向に考えました。

4年生以上の大学生が中小企業で「働きたいと思わない」ということは、すなわちこれらの学生は「大企業で働きたい」と考えているということでもある。大学生が「大企業で働きたい」のは、中小企業よりも大企業に備わった特性のためであるともいえる。なぜ中小企業で「働きたいと思わない」と考えているのか、すなわち「大企業で働きたい」と考えている理由は次のように整理することができる。

表9 中小企業で「働きたいと思わない」理由（「大企業で働きたい」と考えている理由）

- | |
|------------------------|
| ①経営が安定している |
| ②労働環境が良い |
| ③教育研修制度で学べる（キャリアにつながる） |
| ④社会的な信用性がある（キャリアにつながる） |
| ⑤社会的な責任が大きい |
| ⑥憧れがある |
| ⑦一定の学歴による |

Ⅲ-2. 中小企業で「働きたいと思う」グループの分析

問1で「4」あるいは「5」を回答した、中小企業で「働きたいと思う」グループを特定し、なぜ「働きたいと思う」のか、その理由を尋ねた問2のデータをもちいて分析を行う。

これまでの作業と同じように、まず、複合語を強制的に抽出した。これを示したものが、表10である。そして、分析を行ううえで無関係と判断した「思う」、「考える」、「感じる」の3つを抽出語の対象から外した。これらの作業を踏まえた描出語を示したものが、表11である。総抽出語数は2,755（1,087）、異なり語数は718（535）（文98, 段落19, H5 22）であった。

以上を踏まえて、共起ネットワークの分析を行った。この結果を示したものが、図2である。また、なぜ「働きたいと思わない」のか、その理由を尋ねた問2のデータのなかで特徴的な表現に下線を引いた。これを示したものが、表12である。

表10 問2 複合語一覧（2以上）（中小企業で働きたいと思う）

複合語	出現数	複合語	出現数
中小企業	39	銀行業	2
大企業	21	魅力的	2
就職活動	5	福利厚生	2
可能性	4	地元中小企業	2
メガバンク	3	成長性	2
私自身	3	総合広告代理店	2
経営者	3	中小機構	2
		日本経済	2
		中長期的	2
		中小企業経営者	2

表11 問2 抽出語一覧(中小企業で働きたいと思う)

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
中小企業	45	貢献	3	世間	2
大企業	22	資源	3	成長性	2
働く	16	少ない	3	生活	2
仕事	15	成長	3	責任	2
企業	14	選ぶ	3	全く	2
自分	10	多く	3	全国	2
規模	9	大手	3	総合広告代理店	2
将来	7	知る	3	存在	2
多い	7	知識	3	多田	2
地方銀行	7	調べる	3	大きい	2
会社	6	内定	3	担う	2
経営	6	連携	3	担える	2
経営者	6	たくさん	2	段階	2
顧客	6	デメリット	2	地域	2
入る	6	ネットワーク	2	地元中小企業	2
イメージ	5	マーケティング	2	中小機構	2
学ぶ	5	意見	2	中長期的	2
業務	5	一翼	2	倒産	2
経験	5	印象	2	動き	2
私自身	5	価値	2	特に	2
就職	5	関	2	日本	2
就職活動	5	機会	2	日本経済	2
組織	5	気づく	2	任せる	2
地元	5	強い	2	熱い	2
方々	5	教授	2	発表	2
ビジネス	4	業界	2	非常	2
可能性	4	近い	2	幅広い	2
給料	4	近畿	2	福利厚生	2
経済	4	金利	2	分業	2
雇用	4	現時点	2	分野	2
持つ	4	言う	2	聞く	2
自身	4	行う	2	変わる	2
社員	4	講演	2	本来	2
小さい	4	高い	2	埋もれる	2
人数	4	国際	2	満足	2
大事	4	今	2	魅力的	2
目指す	4	最も	2	密接	2
良い	4	思い	2	目	2
さまざま	3	事業	2	役に立つ	2
メガバンク	3	自ら	2	融資	2
メリット	3	失う	2	要望	2
安定	3	実感	2	いま	1
開発	3	授業	2	いろいろ	1
環境	3	終わる	2	くみ取る	1
関係	3	従業	2	そもそも	1
技術	3	重要	2	アンケート	1
距離	3	出会う	2	キーワード	1
銀行業	3	場合	2	キッチン	1
携わる	3	場所	2	キャリア	1
現在	3	新た	2	ゲスト	1

大企業は給料などは良いと思うが生活に余裕がなくなるイメージがあり、中小企業は規模は小さいが職業として選ぶときいろいろな種類があり、給料以外にも他の中小企業との連携で自分が住む町に貢献できるというやりがいが感じれると考えるからである。

中小企業で働く方が、規模が小さい分、全ての業務に密接に携わることができると考えるからだ。大企業で働くメリットはマーケットが広く従業員もたくさんいるため、マーケティング、人事、営業などにおいて多くの知識を得ることができ、社員から学び、彼らと競い合うことができることだと考える。デメリットは分業化されているために業務が決まると、昇進するまでは同じことの繰り返しをし、やりがいを感じづらいことだと考える。中小企業で働くデメリットは逆に規模が小さいことが原因で学ぶことのできる知識量が少ないことだと考える。メリットは規模が小さい分、さまざまな業務に携わることができるだけでなく、顧客との距離が近く、やりがいを感じやすい点であると考える。以上からファーストキャリアでは大企業で知識、経験を豊富に積み、10年後くらいにはアウトップとできるベンチャーや中小企業に転職したいと考えている。社会貢献や顧客に喜びを与えていることを実感しながら働きたい。

中小企業は大企業に比べて数が多く、その多さから埋もれてしまっているいい中小企業も中にはあるので魅力があると思ったから

ゲスト講師の方の講演を聞いたときの紙のアンケートでは、まだどこに就職したいのか未決定だったので、どちらとも言えないと答えました。しかし、授業で配られた地元中小企業のパンフレットや、就職にどのような企業があるか調べていくにあたり、地元中小企業の小規模ならではのいい点、たとえば大企業よりも任せてもらえることが多かったり、幅広い業務を任せてもらえたり、大企業より経営者との距離が近いことや、その地元の暮らしを身近に感じながら仕事ができることなど、メリットがたくさんあることに気がきました。中小企業論という授業を受ける迄は中小企業を就職先の視野にも入れていませんでした。所謂世間一般の、給料の安定、雇用の安定は大企業が保証されている。中小企業はその反対であるとイメージで決めつけていたのですが、調べてみると全くそうではない。海外と貿易関係を持つのは当たり前で、大企業とは会社として規模が違うだけで雇用も守られている。私がひかされたのは、中小企業どうして共同開発をし、地元の特産品を売りだしたり作り出したりすることです。大企業で働くよりも働き方が自分にあっていないかと思うようにもなり、この答えを選びました。

早くから幅広い業務内容に関わりたい。将来、自分のビジネスを持つときには大企業で働くより、中小企業で働いた時の経験の方が役に立つと考えたから。

中小企業は世間的には、あまり良い印象を持たれていないが、私的には成長の可能性のある企業も思うし、自分の働きがいにもすごくつながると思う。しかし、成長性を見込める企業かどうかの判断は、しっかりとしなければならないと思う。

大企業はその規模や体制から、社員と上層部とに距離があり、自身の意見や要望が通りにくかったり、そもそも幹部に意見や要望が届かないイメージがある。存在価値を見出せないまま指示のまま働くよりは、自身の裁量の範囲が大きなことが期待できる中小企業に可能性や希望を感じながら働きたいと考えるため。また、子会社への出向があり、望んでいた仕事や場所と異なる場合もあると聞いた。中小企業であれば、おおよそ求めている仕事や場所に落ち着けそうであるから。

現在、社会学部4年生です。夏の初めに就活が終わり、ひと段落しました。総合広告代理店を目指していた私は、いわゆる電通や博報堂、アサツーディケイなど、大手を目指していました。その当時の私は、上昇志向が強く、企画の上流に携わる仕事をしたかったからです。ですが、内定をいただいた会社は、不動産の大手と、総合広告代理店の中小企業でした。どちらを選ぶか、親や友人に相談しても決めきれず、中小企業について調べました。ネットに多く出てくるのは、「残業」「ブラック」「低賃金」というキーワード。ですが、従業員数が少ない分、一人でこなす仕事の振りが多くやりがいがあるということを知りました。大企業は分業されているところがあり、大きい仕事の一部分しかできないということも知りました。私がやりたい仕事は、大手に入ったところでできない可能性が高いのでは、ということに気づき、それなら「中小企業の広告代理店で大きな仕事をしたらいい」と思いました。以上が、理由です。

中小企業は中堅企業に、さらには大企業にしていこうという勢いがあるから。

私は現在政策学部で4年生で、来年は地方銀行に就職予定です。就職活動では中小企業を支援する仕事をしたいと思い、金融面から支えられる銀行業を志望していました。しかし昨今の地方銀行は融資と金利の利ザヤで収益を確保する銀行本来の稼ぎ方が、マイナス金利が続く今になっては難しくなり、かといって成長性のある中小企業に積極的に融資する流れになっているわけでもなく、証券や保険などの多様な仕事から手数料をとるビジネス形態が主流となってしまっています。そうした環境で自分が本来やりたかった仕事が将来できるのかどうかかわからなくなっています。なので、もしまた就職活動をやりなおせると仮定して考えた場合、私は中小企業に入るか、もしくは中小企業診断士などの専門的な資格をいかに企業に入りたいと考えています。

<p>中小企業の担う日本経済における重要性と可能性、中長期的なさらなる成長への気づきと学びがあったため、将来的に中小企業の経営を志したい、もしくは私がその一翼を担えるような人材になりたいと思っています。つい先日、近畿経産局が発表した試算では、2025年頃までに約118万人の雇用と4兆円のGRPが失われるのではという見方があり、加えて、今10月には帝国バンクが発表したデータで企業の倒産件数が2ヶ月連続で増加、前年同月比では10.1%増の775件、さらには大学、高校を卒業した就業を目指す学生にとって中小企業への就職に対するネガティブなイメージが未だに根が深いなど、依然として中小企業の経営を取り巻く環境は近畿だけにとどまらず全国的にも同様に厳しい状況に変わりはないように思います。しかしながら、日本の9割以上を占める中小企業が経済、資源、雇用、技術、生活の多分野で重要である事には変わりはありません。私自身、会社経営の経験はありませんが、中小企業の経営者の方々に多くの事を学んだ経験があります。10数ヶ国の留学生在在籍するボランティア団体で代表として2年間、活動をしていた際、国際的なチームを率いる組織運営のノウハウが全く無かった私は大阪北新地を中心とする中小企業経営者の方々に組織経営を学びに行き、さまざまな方々に出会い、盛和塾や経営者フォーラムに出席させてもらう機会がありました。そこで、<u>中小企業経営者の方々は非常に情熱的かつ社員一人一人を大切な資源として共に目標を目指す姿勢に溢れていたのが印象的で、中小企業の熱い思いやトップダウンだけでない経営手法、そして地域や分野を越えたネットワークを形成して交流する事で自社および業界を全体で活性化していく企業の努力を目にしました。</u>こういった企業が全国にまだまだ存在しており、関教授のおっしゃるように企業同士の連携ネットワークで新たな市場と利益を創出する動き、地域資源を持ち寄り関係省庁との連携で新たな財の開発、多田様のような中小機構の計画段階から経営、販売、マーケティングなどの全般的かつ密度の高いフォローアップでその動きを更に促進させているという事を考慮すると、確かに現時点では逆風の中であるかもしれませんが、中長期的にもっと活発なビジネスが次々と生まれ日本経済により貢献していく将来を創造できるのではないかと私は思います。そこで私は現時点では比較的、大きな規模の企業で勤務することになっていますが、ここでは自身のスキルと職務経験を蓄積していく修行の期間とし、私が自ら価値を生み出せる主体となった将来には、私が出会ってきた中小企業の経営者の方々のような社員全員と自らが生き生きと熱い思いでビジネスを行い、それが経済効果として波及して影響力を持てるような中小企業で働きたいし、その一翼を担えるようにになりたいと強く思います。</p>
中小企業に内定しています
大企業の方が安定しているし、福利厚生もキチンとしている企業が多いから。
大企業のみならずとも、 <u>優れた実績を残している中小企業は数多くあるから。</u>
私は大企業、有名企業に入ることが自分の幸せにつながることはとは思わない。大きな組織に入って、規則や上司の力に縛られながら働くことよりも、自分が組織の大事な一員だ、役に立っているんだと実感しながら働くほうが性に合っている。そういう働き方ができるのはどちらかと言えば中小企業の方だと思う。
事業の多角化は企業にとって非常に大事ではあるが、自分の性格的に何かに特化した仕事がしたいと考えており、内定先の中小企業にした。組織には統率がとれる限度の大きさがあるとも思っており、人数のせいでネットワークを失うよりはそもそもスピードを重視したい。また、社内での無駄な競争やコストを抑えることができるかもしれないと想像しているため。
もちろん大企業のほうが経済的にも大規模な事業が行うことができたり、給料が良かったりというイメージがあります。しかしながら、中小企業でも例えば、NASA等の国際的大規模なプロジェクトに参加している会社もあったり、環境のために新しい製品や技術を開発している会社があったりと大企業にひけをとらないところもあります。そして、いまの時代大企業だから潰れないしリストラもないとは言いきれません。また、大企業は人数が多く仕事や責任などが分散してしまいます。なので、私は人数が少ないながらも中小企業で責任のある仕事をして、自分自身も会社と共に成長していきたいと思っています。

4年生以上の大学生が中小企業で「働きたいと思う」理由を次の表13のように整理することができる。

表13 中小企業で「働きたいと思う」理由

<p>①優れた実績がある ②成長の可能性がある ③仕事の裁量権がある ④仕事の幅がある（任される、経営も） ⑤組織のなかでの役割が大きい ⑥社長の思い（信念）がある ⑦社員を大切にする ⑧ネットワークを形成し、地域や業界を活性させる ⑨新しいビジネスを創出している</p>
--

Ⅲ-3. 中小企業で働きたいと思わない大学生が「働きたいと考える中小企業」

「あなたが働きたいと考える中小企業とはどのような中小企業ですか。できるだけ詳しく教えてください。」(問3)の設問にかんして、中小企業で「働きたいと思わない」4年生以上の大学生(問1で「1」あるいは「2」を回答)が、「働きたいと考える中小企業」の特徴についてみていく。

これまでの作業と同じように、まず、複合語を強制的に抽出した。これを示したものが、表14である。そして、分析を行ううえで無関係と判断した「思う」、「考える」、「感じる」の3つを抽出語の対象から外した。これらの作業を踏まえた描出語を示したものが、表15である。総抽出語数は1,520(617)、異なり語数は403(294)(文95, 段落25, H5が26)であった。

以上を踏まえて、「働きたいと考える中小企業」にかかるデータのなかで特徴的な表現に下線を引いた。これを示したものが、表16である。

表14 問3 複合語一覧(2以上)(中小企業で働きたいと思わない)

複合語	出現数	複合語	出現数
中小企業	18	意思決定	2
福利厚生	4	大企業	2
必要不可欠	2	技術力	2
世界市場	2	事業内容	2
裁量権	2	若手社員	2
		独自性	2

表 15 問 3 抽出語一覧（中小企業で働きたいと思わない大学生が「働きたいと考える中小企業」）

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
企業	31	裁量権	2	意味	1
働く	22	作る	2	意欲	1
中小企業	18	事業内容	2	移す	1
会社	13	自ら	2	一言	1
持つ	8	自身	2	一番	1
仕事	7	社会	2	押し出す	1
自分	6	若い	2	下	1
下請け	5	若手社員	2	価値	1
環境	5	取り入れる	2	海外	1
意見	4	就職	2	開発	1
貢献	4	充実	2	階級	1
高い	4	重要	2	外資	1
事業	4	女性	2	外注	1
制度	4	将来	2	活躍	1
整う	4	常に	2	甘んじる	1
製品	4	条件	2	貫く	1
福利厚生	4	身	2	関わる	1
サービス	3	世界市場	2	危険	1
育児	3	石油	2	期間	1
行う	3	多く	2	休暇	1
実際	3	大きい	2	級数	1
新しい	3	大企業	2	給与	1
人	3	大事	2	興味深い	1
勢い	3	地域	2	業種	1
成長	3	提供	2	勤める	1
独自	3	倒産	2	傾向	1
日本	3	独自性	2	経済	1
必要	3	発揮	2	激しい	1
さまざま	2	必要不可欠	2	結果	1
スキル	2	富む	2	見通し	1
トップ	2	利益	2	現れる	1
プライベート	2	理由	2	現在	1
安定	2	3つ	1	言える	1
意思決定	2	やり取り	1	誇り	1
育休	2	アナログ	1	雇う	1
可能	2	イメージ	1	交渉	1
活動	2	インターネット	1	構築	1
活用	2	キャリア	1	行動	1
幹部	2	シェア	1	今	1
関係	2	ステップ	1	根ざす	1
技術	2	スピード	1	左右	1
技術力	2	ダイレクト	1	最後	1
強い	2	ノウハウ	1	最終	1
業界	2	ビジネス	1	裁量	1
近い	2	ベスト	1	財務	1
経営	2	ベンチャー	1	参入	1
見える	2	ポスト	1	産休	1
個人	2	マージン	1	使い捨て	1
幸せ	2	扱う	1	使える	1
最近	2	依存	1	市場	1

表 16 中小企業で働きたいと思わない大学生が「働きたいと考える中小企業」

福利厚生がしっかりしており、財務的な安定感があるのは必須である。また社会に必要な不可欠な物を作っていたり、サービスを提供している企業であれば、社会貢献もできるのでベストである。
外注ではない消費者とダイレクトにやり取りをする最終製品を製造する企業。
「世界市場を視野に入れて活動している」「新しいことが大好き」「個人の裁量権が大きい」以上3つの理念を持つような会社に入りたいです。まず、常に世界市場で戦う意欲があり、実際に行動している企業でないと、外資の参入も激しい日本市場では不安です。次に、どんなことでも新しいものを社内に取り入れる文化がないと生き残れないと思います。最後に、離職後のキャリアのために自分の意思決定が結果に直結する仕事をしたいと思います。
現在の就職先を選択したときの話になりますが、人数が少なく一人当たりの裁量が大きく、下の意見が取り入れられるような会社を目指して志望しました。いわゆる下請け企業だと大企業の動向に左右されると考えたためベンチャーのような中小企業に就職したいと考えました。
自分がやりたいと思う仕事ができる企業。
私が働きたいと考える中小企業は、独自の技術力を持っており、長年の経済的な不況などを乗り越えてきた経営的なノウハウにも富んだ中小企業です。
もし中小企業で働くならば、事業内容が個人的に興味深い企業であると思われる。例えば、その事業内容が地域に根ざしている企業である。
先進的な事業を行い、中小企業であるからこそ行える事業活動。
今ある中小企業という立場に甘んじずに常に先を見通し、そして将来は自社の製品で天下を取るのだというところを全面に押し出したそういう自信が現れた会社に勤めたいと思います。
信念を貫いている会社。自分のやりたいことができる会社。
勢いのある中小企業で働きたい。勢い、というのは、その時代の流れにのったビジネスを提供しようとするような企業であり、ダイナミクスに富んでいる企業である。また、勢いがあるというのは、最近ではインターネット業界のように、等比級数的に伸びる企業であって、利益と努力が比例していくようなアナログな企業ではない。
下請けではない会社。この一言に尽きると思います。下請けでは、一次受けなどによる中間マージンで利益がほとんどないイメージ。また、上位層による意思決定で使い捨てのごとく扱われる。下請けではない、独自技術や製品、サービスを展開している必要がある。
地域的な企業。大きな企業を支えるような企業。自分のやりたいことがやりやすい企業。意見が通りやすい。
私が働きたい中小企業の特徴は2点あります。1点目は独自の技術・サービスを持ち、業界での高いシェアを持つ企業であることです。働く企業が倒産しないことが私の会社選びの1つの重要な条件であるため、そのためにこの点をとても重視しています。2点目は若手社員の活躍により、高い成長率を発揮している企業であることです。大企業であれば若いうちから取り組める仕事や役職には制限がある傾向があり、スキルが身につくスピードも早くはないと感じます。その点、特に社歴の若い中小企業は若手社員が大きな裁量権を持っていたり、重要なポストに付いて成長できる環境がある企業が多いと感じています。こういった企業で会社とともに自己成長し、スキルを若い段階で身につけることができれば雇われている企業がどうであるかに依存せず、自らの手で安定的な人生を設計することも可能であると考えます。
給与がいい。成果が目に見える。柔軟に意見が聞ける。すばらしい上司に出会える。トップを尊敬できる社風がある。明確に階級があり、昇進のステップが見える。社員たちが会社に誇りを持っている。幹部が近い。
福利厚生がしっかりとっていて、倒産する危険性のない、やりがいのある仕事ができる企業
中小企業で働きたいと思うときは、自身がトップあるいは経営幹部である中小企業、である。所帯の小さな企業であるならば自身の意見が大いに反映され、また実行に移されるような環境で働きたい。
中小企業で働きたくないです
働きたいと思わない。
石油開発、石油の調達という分野において海外企業に対抗できうる技術力、交渉力を有し、これらの事業を行ううえで不可欠な日本政府との信頼関係を構築できている。また、近い将来までにはそれらを持つ可能性が高いと考えられる企業です。
単なる下請けではなく、新事業への挑戦をしていたり、異業種の中小企業と提携して新しい価値を生み出している等、その中小企業にしかできないことをしている企業です。

中小企業で働きたいと思わない。
私は日本や世界に貢献できるような企業で働きたいと考えています。そのため、大、中小関係なくそのような企業であれば働きたいと考えています。また、できることならそれを自らの力でできたと実感できるような仕事ができるような企業が良いです。
私はプライベートと仕事、どちらも充実させたいと思っているため、一番は働きやすい制度、環境が整っている中小企業です。最近では女性も育児をしながら働く人が増えています。しかし、育児をしながら働くためには育児休暇、有給、産休などさまざまな制度が整っている必要があります。さらに育休期間を終えて、女性が働きに戻った際に育休前と同じように働ける環境作り、周りの配慮などさまざまな環境整備も必要不可欠です。そのような条件全て揃って働きたいと思える会社だと言えらると思います。やりたいことができる会社であることも大事だと思いますが、やはり働いていくうえでプライベートを充実させることができなければ働き続けることはできないと思います。自分の能力を 100% 発揮して働くためにはまずは福利厚生がきちんと整っているということが必要です。さらに、制度が存在しているだけで誰も使えなければ制度がある意味がないので、実際に活用することができる、ということが大事だと思います。このような点から考えて、私が働きたいと考える中小企業は、福利厚生が整っており、実際に活用されている企業です。
独自性が強く、多くの人の幸せに貢献できる会社。独自性が強くあるべき理由は、企業の持続性が高く、会社が潰れることがないと考えたため。また、多くの人の幸せに貢献できるを選んだ理由は、その場合、自分がやりがいを持って仕事に関わることができると考えたため。

4 年生以上の大学生のなかで、中小企業で「働きたいと思わない」と考える学生が「働きたいと考える中小企業」の特性は、次の表 17 のように整理することができる。

表 17 中小企業で「働きたいと思わない」大学生が「働きたいと考える中小企業」の特性

<ul style="list-style-type: none"> ①成長志向がある／成長を実現している ②その分野で高いシェアがある ③技術力が高い ④長年経営を継続させている ⑤社会で必要な商品・サービスを提供している ⑥先進的な事業を営んでいる ⑦地域に根ざしている ⑧消費者に直結している

IV おわりに

本稿は、中小企業における人材確保の円滑化につながりうる基礎データを提示することを目的に、拙稿（2017 a）を踏まえ、大学生を対象とした調査から得たデータの分析を行ってきた。具体的には、中小企業を念頭に置き、中小企業で働く人材、とくに、4 年生以上の大学生が中小企業で働くということに対していかに考えているかを、調査から得たデータをもちいて分析を行ってきた。

本稿での分析からとくに明らかになったのは、中小企業で働きたいと思わない理由および働きたいと思う理由、また、中小企業で働きたいと思わない大学生が「働きたいと考える中小企業」の特性である。それらの諸点をあらためて示したものが、次の表 18 および表 19 である。

ここで興味深い点は、中小企業で「働きたいと思う」理由と、中小企業で「働きたいと思わない」大学生が「働きたいと考える中小企業」の特性が、部分的に合致するもの

の、相違点も多くみられるという点である。中小企業で「働きたいと思う」理由のなかには、仕事や組織、社長や社員といった「働く」ことにかかる項目がみられるが、これら「働く」ことにかかる項目は、大学生が「働きたいと考える中小企業」の特性にはみられない。その反面、大学生が「働きたいと考える中小企業」の特性のなかには、事業や技術、顧客（消費者）など、ビジネスに直結する項目ばかりが並んでいる。

表 18 中小企業で「働きたいと思わない」理由（「大企業で働きたい」と考えている理由）（再掲）

- | |
|--|
| ①経営が安定している
②労働環境が良い
③教育研修制度で学べる（キャリアにつながる）
④社会的な信用性がある（キャリアにつながる）
⑤社会的な責任が大きい
⑥憧れがある
⑦一定の学歴による |
|--|

表 19 中小企業で「働きたいと思う」理由および中小企業で「働きたいと思わない」大学生が「働きたいと考える中小企業」の特性

中小企業で「働きたいと思う」理由	中小企業で「働きたいと思わない」大学生が「働きたいと考える中小企業」の特性
①優れた実績がある ②成長の可能性がある ③仕事の裁量権がある ④仕事の幅がある（任される、経営も） ⑤組織のなかでの役割が大きい ⑥社長の思い（信念）がある ⑦社員を大切にする ⑧ネットワークを形成し、地域や業界を活性させる ⑨新しいビジネスを創出している	①成長志向がある／成長を実現している ②その分野で高いシェアがある ③技術力が高い ④長年経営を継続させている ⑤社会に必要な商品・サービスを提供している ⑥先進的な事業を営んでいる ⑦地域に根ざしている ⑧消費者に直結している

本稿は、調査内容に基づき、分析方法、分析、その結果を示すことにとどめている。そのため、多くの検討課題が残されている。中小企業で働きたいと思わない大学生が、その理由で示した大企業の特性ともいえるべき側面は、はたして中小企業では実現が不可能な特性なのであろうか。中小企業で働きたいと思わない大学生に対して、中小企業で働くことに対して、どのような諸点で「働く」価値を見出してもらうよう働きかけていくかは、経営実践的にも政策的にも今後検討していくべき課題であろう。

付記

本稿の内容は、2018年1月30日に、同志社大学今出川キャンパスにて開催された、京都中小企業家同友会南支部1月度例会における、筆者の「中小企業で働く－2017年度における同志社大学4年生を対象とした調査から－」をテーマとした報告に基づいている。報告の機会を与えていただいた京都中小企業家同友会南支部の方々、とくに石下喜浩京都中小企業家同友会南支部支部長ならびに吉田雅己同例会委員には報告の実現にあたりさまざまな諸点でご尽力をいただいた（以上、役職は2018年1月30日当時のものである）。この場をお借りし、記して感謝の意を表したい。

参考文献

- 関智宏（2017 a）「中小企業で働く－大学生が中小企業で働く際に求めること－」同志社大学商学会『同志社商学』第 68 巻第 5・6 号, pp.103-140
- 関智宏（2017 b）「中小企業をイメージする－2013 年度における大学生を対象とした調査から－」同志社大学商学会『同志社商学』第 69 巻第 1 号, pp.85-148
- 関智宏（2017 c）「起業・創業する－2015 年度における大学生を対象とした調査から－」同志社大学商学会『同志社商学』第 69 巻第 2 号, pp.101-132, 2017 年 9 月
- 関智宏（2018）「中小企業をイメージする（2014 年）－2014 年度における大学生を対象とした調査から－」同志社大学商学会『同志社商学』第 69 巻第 4 号, pp.61-88

資料1 (問1・問2)

整理 番号	性 別	学 年	学 部	問1	問2「問1のように答えたのはなぜですか。その理由をできるだけ詳しく教えてください。」
1	1	5	商	3	私は、どちらともいえないを選択しました。その理由は、私が韓国で働くか、日本で働くかにより違うと思うからです。私が、韓国で働くとするば、中小企業で働かないです。先生の授業でも中所企業のイメージはあまり高くないとおっしゃいましたが、私がお考えの時、韓国の場合はもっとひどいだと思います。韓国で、中小企業といえば、3K（危険、汚い、きつい）という偏見が多いだと思います。そのため、韓国の国内就職率が最悪で企業に入って、働くことが難しいと出ているが、実際には中小企業では人手が足りなくて、東アジアの労働力を使っている状態でもあります。また、社会的な雰囲気のことがあると思います。韓国では、大学への進学率が最も高い国であります。そのため、あまり有名ではない大学とはいへ、自分は大学まで出た人なのに、中小企業にはいかないという考えが多いと思います。また、韓国は、急成長のために、大手会社を表にした社会なので、周りからも中小企業に就職したという、失敗したように見るのも原因だと思います。しかし、私が日本で働くとするば、中小企業でも大丈夫だと思います。日本の場合、中小企業がちゃんと支えているうに大手企業があるので、小さくても強い会社が多く存在しています。また、中小企業とは言っても、長い歴史を持っている会社が多いです。このような理由で、私は上のような選択をしました。
2	1	4	商	2	父親が勤めていた企業が、小さい頃に倒産した経験があり、できるだけリスクが少ない企業に勤めたいと考えている。また一般的に資本のある大企業の方が福利厚生がしっかりしており、今後の生活費等を考えた際に自ずとこの結論に至った。
3	1	4	経済	1	大小問わず企業で働くつもりがないからです。社長として個人でやっていきます。
4	1	4	商	4	私は現在、就職活動の準備段階でありさまざまな業界を知る機会がある。その中で私は特に銀行業に興味を持った。そこで私は、将来私自身が働きたいと思う銀行業界の大企業であるメガバンクと、中小企業にあたる地方銀行を例にあげて述べることにする。まず、メガバンクについて私が魅力的だと感じる点は2つある。1つめは福利厚生や高収入などの私自身に有益な点である。2つめは多くの大中小企業と取引をしており、日本の経済の根幹を担うというやりがいである。次に、地方銀行などを良いと感じる点は顧客の顔を見ることができるとい点である。顧客の考えや気持ちをくみ取り、最も満足してもらえるように最善を尽くすことが仕事の原点であり、また私自身それが一番のやりがいであると思う。そして、顧客と密接な関係を築く地方銀行の方がその点において適している私は考えている。以上のことから私はメガバンクについて魅力的に感じる点もあるが、私自身が最も大事だと考える目の前の顧客を満足させるという点において、地方銀行の方がふさわしいと考え、将来は中小企業である地方銀行で働きたいと思った。
5	1	5	商	1	小さい組織は自己成長に最適な環境だと思うからです。小さな組織で比較的大きな裁量権をもって仕事をする、そしてその責任も自分にくる。そんな組織で働くことが、会社を離れた後の人生で役立つと思いました。大企業は入社後から退社まで働いてやっとメリットが得られる組織だと思います。今となっては、ベンチャー企業の方が給料が高いし、福利厚生も充実すると思います。実際に1年間大阪のIT企業でインターンして、普通のサラリーマンより給料が良かったことが印象強くてなりません。給料も福利厚生もよく、退職後のキャリアにつながる仕事ができる。それが中小企業に思い描く僕のイメージですが、おそらく大阪・東京の中小企業の一部しかあてはまらないでしょう。こういった企業に限って、就職したいと思います。
6	1	4	経	2	私は4年生で既に就職先が決定しています。従業員の少ないベンチャー企業に就職予定で、ある意味中小企業を選択した結果にはなりましたが、「将来」というキーワードを考慮した場合、10年先に自分がそこで働き続けているビジョンが見えませんでした。もともとベンチャー企業で能力をつけてから比較的稳定した企業へ転職しようと考えて現在の就職先を決定したため、やはり将来のことを考えると大企業の第一線で活躍できるようになりたいと考えます。
7	1	5	法	2	自分のキャリアスタートとしてまずは大企業で働いてみたいという気持ちがあるから。
8	1	4	商	4	私は、4回生で就職活動は終わっているのですが、就職活動を通して自分が大企業に入って果たしてやっていけるのか、埋もれてしまうのではないかと考えた結果、地元に戻って、地元で頑張っている中小企業特に独自の技術をもっていたり、地元の人々から大事にされている企業で働くほうが後の人生明るく過ごせると思った。ただ、地方の中小企業ということもあって、今後倒産とかしないだろうかとか心配ことは多々あった。
9	1	5	商	5	大企業は給料などは良いと思うが生活に余裕がなくなるイメージがあり、中小企業は規模は小さいが職業として選ぶときいろいろな種類があり、給料以外にも他の中小企業との連携で自分が住む町に貢献できるというやりがいを感じれると考えるからである。
10	1	5	法	4	中小企業で働く方が、規模が小さい分、全ての業務に密接に携わる事ができると考えるからだ。大企業で働くメリットはマーケティングが広く従業員もたくさんいるため、マーケティング、人事、営業などにおいて多くの知識を得ることができ、社員から学び、彼らと競い合うことができることだと考える。デメリットは分業化されているために業務が決まると、昇進するまでは同じことの繰り返しをし、やりがいを感じづらいことだと考える。中小企業で働くデメリットは逆に規模が小さいことが原因で学ぶことのできる知識量が少ないことだと考える。メリットは規模が小さい分、さまざまな業務に携わることができるだけでなく、顧客との距離が近く、やりがいを感じやすい点であると考え。以上からファーストキャリアでは大企業で知識、経験を豊富に積み、10年後くらいにはアウトプットできるベンチャーや中小企業に転職したいと考えている。社会貢献や顧客に喜びを与えていることを実感しながら働きたい。
11	1	4	商	5	中小企業は大企業に比べて数が多く、その多さから埋もれてしまっているいい中小企業も中にはあるので魅力があると思ったから
12	1	4	経済	2	中小企業には中小企業なりの技術力や柔軟性があり魅力を感じる部分もありますが、やはり体力的な不安要素や福利厚生に関しての待遇においては企業に劣る部分が多いため、安定的に働きたいと考える自分としては必ずしも中小企業で働きたいとは思いません。
13	1	4	法	2	中小企業が決して大企業に劣っているというわけではないが、就職するにあたって、給料や安定性、事業規模などは考慮する要素となり、その点に関して大企業の方が中小企業より勝っているということは世間一般の認識であると思われる。そして、私自身もそう思うので、やはり中小企業より大企業の方で働きたいと思う。
14	2	4	商	3	大企業の方が、福利厚生や給与形態が整ってそうなイメージをもっているから。中小企業は規模が小さいが故に将来の経営に不安感を抱いてしまう。
15	1	4	法	3	働くなら大企業の方がいいという世間のイメージがどうしても抜けないため。大企業の方がいいという考えが私自身持っているように感じる。例えば、大企業の方が仕事の規模感が大きい点、安定して働けるとい点が挙げられると思われる。しかし、近年大企業の倒産や不祥事が続発していることもあり、大企業＝安定という図式が崩れつつあるように感じる。そのようなことから自身の専門性や創造力といったものを売りにし、起業する流れがある。この働く多様性などを見ていくうちに働く企業に対するこだわりをあまりもたず、自身が楽しく、また生産性の高い、実りある人生になるような働き方を得られるような働き方をしていきたいと思う。このようなことから大企業や中小企業で働くという考え方自体がどちらともいえないというのが現時点の私の考えである。
16	1	4	経済	3	すでに就職活動を終え、終わった当初は大企業に行きたかったという思いが少しでもあったと感じているため。しかし、授業を通して中小企業の魅力について理解し始めてきているからです。
17	1	4	経済	1	大企業に内定を頂いております。大企業を選択したのは、入社後及び、20代を勉強や大企業でしか学べないノウハウを学ぶためでした。

整理番号	性別	学年	学部	問1	問2「問1のように答えたのはなぜですか。その理由をできるだけ詳しく教えてください。」
18	2	4	商	4	ゲスト講師の方の講演を聞いたときの紙のアンケートでは、まだどこに就職したいのか未決定だったので、どちらとも言えないと答えました。しかし、授業で配られた地元中小企業のパamフレットや、就職にどのような企業があるか調べていくにあたり、地元中小企業の小規模ならではのいい点、たとえば大企業よりも任せてもらえることが多かったり、幅広い業務を任せてもらえる、大企業より経営者との距離が近いことや、その地元の暮らしを身近に感じながら仕事ができることなど、メリットがたくさんあることに気付きました。中小企業論という授業を受ける前は中小企業を就職先の視野にも入れていませんでした。所謂世間一般の、給料の安定、雇用の安定は大企業が保証されている。中小企業はその反対であるとイメージで決めつけていたのですが、調べてみると全くそうではない。海外と貿易関係を持つのは当たり前で、大企業とは会社として規模が違うだけで雇用も守られている。私がひかれたのは、中小企業どうして共同開発して地元の特産品を売りだしたり作り出したりすることです。大企業で働くよりも働き方が自分にあっていないのではないかと思うようにもなり、この答えを選びました。
19	2	5	法	3	特に大企業で働きたいというこだわりはないが、ただ、大企業においても中小企業においても、メリット・デメリットはあるため、規模の大きさで選ぶというよりは、どの業種でどんな会社であるかに重点を置きたい。実際、未だに何がしたいのかが明確に定まっておらず、よって業種を選ぶという点でも苦戦するだろう。だから、自らが少しでも関心を持っている分野であれば、大企業、中小企業問わず挑戦したいと思っている。中小企業基盤整備機構が地域の中小企業や地域社会が抱える問題や課題を解決するために、支援活動をしているという話であったが、認定された新事業の事例の紹介もあり、今まで知っていなかったことを学ぶことはできた。また、普段の講義で私がこれまで持っていた中小企業のイメージが少し変わったのは事実だが、実際、社会に出てはいないため、どちらがよいとはいははつきりと決められないのが現状である。
20	1	4	法	1	今回の授業を受けていても思ったことが、元請け企業の下請け企業に対する立場の強さがいざ、中小企業で働くとなった時にしんどいのではないと思う。下請け企業は品質、価格、納期をより良い状態で大企業に売り込まないといけないのでもしかしたらかなり無理をしなければならない時もあると思うからです。そして新しい製品を開発して元請け側に回るとするのはそういう中小を探し、就職するという前段階ののちそこから下請け企業としての仕事をしながら新製品の開発をするというのはかなりハードルの高い作業だと思います。私にはそのようなバイタリティはないし、そこまで先を見通した就活をすることは難しいと考え、最初からでさ上がっていて名前の売れている有名な大企業は失敗はないと思うのでそのような企業に就職したいと考えます。
21	1	5	商	3	私は中小企業には中小企業の、大企業には大企業の良さがあると思います。大企業の良さと言うものは取引、仕事のスケールの規模が比較的大きく、やりがいと言うものが大きく感じられるものだと思います。そして、大企業は大体一般的に世間的に認知されている企業であり、将来とんでもないことがない限り潰れることのない安泰な職種だと感じています。次に中小企業は、やる仕事内容がピンポイントのところで、1つの特長に突き詰めてやることができることごとだと思っています。さまざまな種類の職種がありますが、各企業独自の商品を作り上げ、オリジナリティのある会社へと変わることができおもしろいがあると思います。そして、少数精鋭なので、実力次第では上はす行くこともできますし、チームでの団結力も上がると思うので、大企業とは違った働きがいがあると思います。以上から、どちらも良い点があると感じました。
22	1	5	法	3	企業の利益獲得活動ではなく、ビジネスでは解決できない、社会問題を解決したいので、公務員になりたいからです。
23	1	4	法	2	給料水準や福利厚生を鑑みると、やはり大企業の方が整っている場合が多いと考えるから。中小企業は給料水準が低く、福利厚生も整っていないというわけではないが、大企業は社会的な知名度も高く、世間の注目を集めやすいという点で改善される余地が多いのではないと思う。
24	1	4	法	1	大企業で働いていたという事実が、ある一定の信頼を生み、転職する際にも有利かつ、不安定な経済状況下でも生き残りやすいから。大企業から中小企業へというシフトは比較的容易なのに対し、中小企業から大企業へのシフトは難しい。従って、ある一定の信頼を得るためにも、大企業で勤める事のメリットを享受したい。
25	2	4	商	3	現在私は、4回生で内定先も決まっています。その内定先は人材派遣のベンチャー企業の総合職です。これを踏まえたうえで、私が就職活動中に軸にしていたことは、発展途上の企業で自分も最速で成長できる企業であることです。なぜなら、将来起業を考えており若いうちにさまざまな経験ができる可能性を考えたからです。上記の条件が当てはまる中小企業であれば、きたいと思っと思っています。加えて、私は大手企業のように安定して収入や生活が保障されている環境は刺激が足りないかと考えていたため、目指していませんでした。現時点で中小企業の定義は完全には把握していませんが、就職活動中に感じていたことは、大手ほどではありませんが、中小企業もそれなりに安定しているように感じ、また創業から長い歴史がある企業も多く私の希望に当てはまる企業は少ないと感じていました。そのため、条件にあえば働きたいですが体感的には条件に合う企業とは出会えなかったというのが結論です。
26	1	4	経済	1	中小企業が悪いという訳ではないが、ファーストキャリアとしての選択肢には向かないと思います。なぜなら、私は将来経営者になりたいと思っており、その下積みとしては教育・研修プログラムが充実している大企業に入社しビジネスを学習したうえで起業したいからです。また、大企業であっても倒産の危険性が高いのにファーストキャリアで中小は考えられない。中小の中でもメーカー的気質・下請けではなく独自の製品などを持っていたら別だが。
27	1	4	商	3	中小企業で仕事をする人にとっては、明確に自分のやりたいことを理解しており、ビジョンを持っていることが大企業以上に重要だと考える。大企業に勤める場合には、もともと企業の力が強く、余裕があるように感じる。したがって、明確なビジョンがいまだに定まっていな現在の自分にとっては、幅広い業界と関わることでできる大企業で経験を積みたいと考えている。しかし、自分の関心がある分野で大きくなったときには、大企業におけるほんの一部分よりも、中小企業で大きな役割を果たす一人として仕事に取り組むことのやりがいを感じられると考える。
28	2	4	スポ健	2	大企業でやりたいことが特になければ特に求めないから。
29	1	7	商	3	現実にはできるかどうかは別として、できることなら自分が興味を持つ分野にかかわる仕事をしたい。会社の規模に関しては特にこだわりはないので、大企業であろうが中小企業であろうがどちらでも構いません。強いて言うなら、中小企業のほうが規模が小さい分、より濃く業務に携われるのではないかと漠然としたイメージは持っています。逆に大企業では、関心のある分野で事業を行っていても、自身がその部署に配置されるのか、されたとして意見をできる立場になるまでには時間がかかるのではないかと不安もあります。理想は個人経営の飲食店などを開業して好きに働くことです。
30	1	4	商	3	大企業には福利厚生が整っていたり、将来に何十年にわたり業績が安定していそうなイメージがあり不況などが起きても乗り越える体力があるイメージがありますが、中小企業にはそれがなさそうな気がしています。ただあくまでイメージであるので、中小企業にも上記が兼ね備わっている企業もなかにはあると思います。私は福利厚生が整っており、安定性が感じられる企業で働きたいのでそれらが感じられるなら大小を問わないのでどちらでも無いと回答しました。
31	1	5	法	5	早くから幅広い業務内容に関わりたい。将来、自分のビジネスを持つときには大企業で働くより、中小企業で働いていた時の経験の方が役に立つと考えたから。
32	1	4	政策	2	大企業の方が中小企業よりも体力があり、倒産のリスクが小さいため大企業に勤めた方が長い目で人生設計をすることができると考えているためです。もし中小企業に勤めたとしてその企業が途中で倒産すれば、もう一度新しい職を求めて人生設計をやり直さなければならないことは危機感を感じます。また、本日の講義でもあったように海外取引が今後ますます増加するため、多くの日本の中小企業の将来は楽観視できるものではないと感じます。しかし、例え大企業であっても倒産のリスクがあることは言えないため、ただ働くだけでなく働きながら自分の社会的価値が増すようなスキルを身につけてもしるも事態に備えるべきだと考えています。私は先の就職活動ではこのスキルが身につくかといった点を重視し、若いうちから裁量権が多い大企業に絞って活動しました。そのため、大企業と中小企業を比較すれば私は大企業に勤めたいと考えていますが、仕事を通じてスキルが身につかなかったりその会社でしか通用しないスキルしか身につかない仕事は大企業でするのであれば、社会的に価値のあるスキルが身につく中小企業で働いた方がかえって安定的な人生を歩む近道になるとも考えています。そのため私はどちらかといえば大企業で働きたいと回答しました。

整理番号	性別	学年	学部	問1	問2 「問1のように答えたのはなぜですか。その理由をできるだけ詳しく教えてください。」
33	2	4	商	2	大企業に憧れがあり、周りからも認められやすい。圧倒的な資金力で中小企業ではなし得ない力で社会にインパクトを与えることができる。業界自体が不安定であっても少なくとも自分が動いている間には倒産のリスクは少ないと思うから。また、昇進の幅が広い。入社するにもそれなりの過程を通過しなくてはならないことから、優秀な人材が集まっていると思うから。各地に支社があるから。さまざまな部署に分かれているため、ひとつのことに集中できる。一方で、中小企業も大企業に比べ小回りが効くことから変化を感じやすく、また顧客に近いイメージがあるのが魅力的である。しかし、役員以下では給与が横ばいのイメージがある。
34	1	5	商	4	
35	2	4	経済	4	中小企業は世間的には、あまり良い印象を持たれていないが、私的には成長の可能性のある企業もあると思うし、自分の働きがいにもすぐつながると思う。しかし、成長性を見込める企業かどうかの判断は、しっかりとしなければならないと思う。
36	2	4	法	4	大企業はその規模や体制から、社員と上層部とに距離があり、自身の意見や要望が通りにくかったり、そもそも幹部に意見や要望が届かないイメージがある。存在価値を見出せないまま指示のまま働くよりは、自身の裁量の範囲が大ききことが期待できる中小企業に可能性や希望を感じながら勤めたいと考えるため。また、子会社への出向があり、望んでいた仕事や場所と異なる場合もあると聞いた。中小企業であれば、おおよそ求めていた仕事や場所に落ち着けそうであるから。
37	1	5	商	2	大企業のほうが福利厚生が手厚い印象がある。中小企業より大企業のほうが給料が高い印象がある。
38	2	7	商	4	
39	2	4	社会	4	現在、社会学部4年生です。夏の初めに就活が終わり、ひと段落しました。総合広告代理店を目指していた私は、いわゆる電通や博報堂、アサツーディケイなど、大手を目指していました。その当時の私は、上昇志向が強く、企画の上流に携わる仕事がしたかったからです。ですが、内定をいただいた会社は、不動産の大手と、総合広告代理店の中小企業でした。どちらを選ぶか、親や友人に相談しても決めきれず、中小企業について調べました。ネットに多く出てくるのは、「残業」「ブラック」「低賃金」というキーワード。ですが、従業員数が少ない分、一人でこなす仕事の振りが多くやりがいがあるということを知りました。大企業は分業されているところがあり、大きい仕事の一部分しかできないということも知りました。私がやりたかった仕事は、大手に入ったところでできない可能性が高いのでは、ということに気づき、それなら「中小企業の広告代理店で大きな仕事をしたい」と思いました。以上が、理由です。
40	1	4	経済	2	大きく分けて2つの理由がある。1つは収入や福祉面だ。両親や親戚、皆が大企業の部類の企業に勤めている。そのため、企業年金や福祉制度などがしっかりと整っており、逆に中小企業だとそれはなかなか難しいといわれた。2つ目は簡単に言えば虚栄心だ。やはり、誰もが知っており、社会的に認められた企業の一員として働きたいし、それはモチベーションにもつながると思う。
41	1	4	法	5	
42	1	4	経済	5	中小企業は中堅企業に、さらには大企業にしていこうという勢いがあるから。
43	1	4	政策	4	私は現在政策学部で四回生で、来年は地方銀行に就職予定です。就職活動では中小企業を支援する仕事をしたいと思い、金融面から支えられる銀行業を志望していました。しかし昨今の地方銀行は融資と金利の利ザヤで収益を確保する銀行本来の稼ぎ方が、マイナス金利が続く今になっては難しくなり、かといって成長性が見込みのある中小企業に積極的に融資する流れになっているわけでもなく、証券や保険などの多様な仕事から手数料をとるビジネス形態が主流となっていました。そうした環境で自分が本来やりたかった仕事が将来できるのかどうかわからなくなっています。なので、もしまた就職活動をやりなおせると仮定して考えた場合、私は中小企業に入るか、もしくは中小企業診断士などの専門的な資格をいかに企業に入りたいと考えています。
44	1	5	商	4	前回までの関教授による講義と中小機構の多田様によるご講演から、中小企業の担う日本経済における重要性と可能性、中長期的なさらなる成長への気づきと学びがあったが、将来的に中小企業の経営を志したい、もしくは私がその一翼を担えるような人材になりたいと思っています。つい先日、近畿経産局が発表した試算では、2025年頃までに約118万人の雇用と4兆円のGRPが失われるのではという見方があり、加えて、今10月には帝国バンクが発表したデータで企業の倒産件数が2ヶ月連続で増加、前年同月比では10.1%増の775件、さらには大学、高校を卒業した就業を目指す学生にとって中小企業への就職に対するネガティブなイメージが未だに根が深いなど、依然として中小企業の経営を取り巻く環境は近畿だけでなくとどまらず全国的にも同様に厳しい状況に変わりはないように思います。しかしながら、日本の9割以上を占める中小企業が経済、資源、雇用、技術、生活の多分野で重要である事に変わりはありません。私自身、会社経営の経験はありませんが、中小企業の経営者の方々に多くの事を学んだ経験があります。10数ヶ国の留学生在籍するボランティア団体で代表として2年間、活動していた際、国際的なチームを率いる組織運営のノウハウが全く無かった私は大阪北新地を中心とする中小企業経営者の方々に組織経営を学びに行き、さまざまな方々に出会い、盛和塾や経営者フォーラムに出席させてもらう機会がありました。そこで、中小企業経営者の方々は非常に情熱的かつ社員一人一人を大切な資源として共に目標を目指す姿勢に溢れていたのが印象的で、中小企業の熱い思いやトップダウンだけでなく経営手法、そして地域や分野を越えたネットワークを形成して交流する事で自社および業界を全体で活性化していく企業の努力を目にしました。こういった企業が全国にまだまだ存在しており、関教授のおっしゃる様に企業同士の連携ネットワークで新たな市場と利益を創出する動き、地域資源を持ち寄り関係省庁との連携で新たな財の開発、多田様のような中小機構の計画段階から経営、販売、マーケティングなどの全般的かつ密度の高いフォローアップでの動きを更に促進させているという事を考慮すると、確かに現時点では逆風の中であるかもしれませんが、中長期的にもっと活発なビジネスが次々と生まれ日本経済により貢献していく将来を創造できるのではないかと私は思います。そこで私は現時点では比較的、大きな規模の企業で勤務する事になっていますが、ここでは自身のスキルと勤務経験を蓄積していく修行の期間とし、私が自ら価値を生み出せる主体となった将来には、私が出会ってきた中小企業の経営者の方々のような社員全員と自らが生き生きと熱い思いでビジネスを行い、それが経済効果として波及して影響力を持てるような中小企業で働きたいし、その一翼を担えるようになりたいと強く思います。
45	2	4	商	3	中小企業は現在の日本経済にとって非常に不可欠なものであり、またこれからの日本経済の発達に関しても重要な役割を果たすと思う。そのため仕事にやりがいを感じることができる環境であると思う。だがその反面まだ今尚成長途中にある企業も多く、将来結婚出産を控える女性としては、福利厚生や浸透などに少し疑問や疑念があるため。
46	1	4	法	3	働きたい企業について大企業であるかそうでないかをあまり重視してはいないため、どちらとも言えないを選択した。業界や職務について、つきたい仕事であれば企業規模は二の次であると考えた。ただし、同程度の職務で比較検討する場面では当然に企業規模も狙い上上がるだろうとは考えられ、その場合は大企業寄りになるのではないかと感じている。
47	1	5	商	1	企業の将来が不安だし、金もそれほど儲けられない。自分は中小企業で働くより価値があると思うこともある。実際日本に留学まで来て中小企業に入るのは今まで勉強に使っている費用がもったいない
48	1	4	経済	5	中小企業に内定しています
49	2	4	経済	3	講義を通して、やはり大企業の方が優遇されていたり日本においても重要視されがちであることを学んだから。また、働く側としても福利厚生面で大企業の方が整備されていると思うから。
50	1	4	法	3	日本の企業の99.7%が中小企業であり、日本を支えているのは中小企業と言っても過言ではない。加えて、中小企業基盤整備機構による新連携、地域資源活用プログラム、農商工連携、JAPANブランドなどの支援策は一中小企業だけでは実現不可能なものを他の中小企業や生産者と協力することで実現可能としている点で素晴らしいものだと感じる。しかしながら、何らかしらの原因の不景気が起こった場合に中小企業がそれを耐えきることができる体力があるのか疑問である。このことから、中小企業に入りたいかどうかどちらとも言えない。

整理番号	性別	学年	学部	問1	問2「問1のように答えたのはなぜですか。その理由をできるだけ詳しく教えてください。」
51	1	4	経済	3	大企業の方が中小企業よりも福利厚生が充実していると考えているからです。また、世間体を気にすると大企業で働くほうがいいかなと感じています。しかし、自分の意思が反映されやすく、自分のする仕事が多いのは中小企業だという認識もしており、やりがいの面で考えると中小企業の方が良いのではないかと感じましたからです。
52	1	4	商	5	大企業の方が安定しているし、福利厚生もきちんとしている企業が多いから。
53	1	5	法	3	どちらとも言えないと答えたのは現状でまだ答えが出ていないからです。私はすでに就職活動を終えて、東京のITベンチャー企業に就職することが決まっています。その会社を選んだ理由は2点あって、1点目は人が優秀だから。2点目は会社自体も勢いよく成長しており、自分次第では自分にも成長機会が与えられると思ったから。つまり現状の私の大事な価値観は自己の成長で、1人になっても、どんな時代になっても食いつぶぐれない力、事業を起こせる力をつけようと思っています。大企業を選ばなかったのは自己の成長が時間軸で見ると緩やか、中小企業を選ばなかったのは、成長性が不透明だから。だがこれから自分が明確にこの業界、ジャンルでビジネスがしたいとなる、また人生のキャリアや生き方の方向性が変われば、その知見や情熱が集まっている中小企業に、比較的に自分の時間が作れる大企業に転職する可能性はあるかもしれない。どの規模の会社に行ってもメリット、デメリットはあると思っています、今の自分が欲している、求めていることに応じて、会社の選択をしていく。
54	1	4	経済	1	周りの評価を気にするので、名の知れた企業で働きたい。
55	1	5	法	1	私の希望とは合いくいと考えるからです。私は就職活動を終えた身なのですが、就活時は、エネルギー資源を自給できない日本社会に対して石油・天然ガスを供給することで日本を支える。という軸に則って活動し、幸いなことに、希望していた企業から内定を頂くことができました。ですので、中小企業で働く可能性があるとすれば、私が転職をする場合になると考えます。しかし、私の軸に則ると私が希望する企業は、天然資源の供給を通して国家経済に対して責任を有する企業ということになります。そのため、私の希望を叶えるに適した企業はほぼ必然的に大企業であることになると考えています。私はこの希望を現在のところ変えるつもりはなく、転職等をするところがあるとしてもそれに則って企業を選びたいと考えています。そのため、中小企業は私の希望とは合っていないと考えられるため、働きたいとは思わないと回答させていただきました。
56	1	4	商	3	私は就職活動を終え、大企業に就職することになり、働くこととなる予定ですが、将来的には自分のやりたいことを考慮したうえで、中小企業で職務を行うこととなる可能性もあるからです。大企業のメリットとして、一般的に中小企業と比べ倒産のリスクが低く、給与面でも高い水準にあります。また働くことのできるフィールドが広く、世界を股にかけ働くことのできる環境があります。しかし、自分の働きたい業種である会社に就職できたととしても、多様な事業・職種が存在し、自分の思い描いていたキャリア通りにはいかない点も大企業にはあります。その一方で中小企業は大企業と比べ、組織の規模が小さいために、意志決定のスピードが早く、やりたい事業を推し進めていくことができます。しかしこの点には問題が孕んでおり、中小企業であるがゆえに、資金調達面で立ち行かなくなる面も存在します。私が将来的に自分がやりたいビジネスを新たに発見し、その環境で仕事をしたいと思うことがあれば、大企業から中小企業への転職も、総合的に考えたとうえで実行する可能性があるため。
57	1	4	商	4	大企業のみならずとも、優れた実績を残している中小企業は数多くあるから。
58	1	4	商	1	
59	1	4	商	2	就職について家族や父親と相談した時、「せっかく同志社にいるのだから、わざわざ大企業に行くチャンスより中小企業を優先することはない。大企業から中小に転職するのは比較的容易だが、その逆はとても難しい」と聞いたからです。11月1日のゲストスピーカーさんによる講演で中小企業支援機構など、現在の日本が中小企業にとって経営しやすい環境になりつつあることはわかりましたが、現時点では大企業の二の次という考え方をしています。
60	1	4	商	4	私は大企業、有名企業に入ることが自分の幸せにつながるのだとは思わない。大きな組織に入って、規則や上司の力に縛られながら働くことよりも、自分が組織の大事な一員だ、役に立っているんだと実感しながら働くほうが性に合っている。そういう働き方ができるのはどちらかと言えば中小企業の方だと思う。
61	1	6	商	2	大企業の方が待遇、給与、ブランド、できることの大きさなどが大きいから。責任の大きさも違う。
62	1	5	商	5	事業の多角化は企業にとって非常に大事ではあるが、自分の性格的に何かに特化した仕事がいいと考えており、内定先の中小企業にした。組織には統率がとれる限度の大きさがあるとも思っており、人数のせいでネットワークを失うよりはそもそものスピードを重視したい。また、社内での無駄な競争やコストを抑えることができるかもしれないと想像しているため。
63	1	4	法	2	先生の講義や就職活動中の企業研究などで中小企業に対してのイメージは決して悪くはありません。さまざまな業種や仕事内容もあって、世界に大きく貢献している企業がある事も知りました。しかし、現在内定を頂いた企業が大手企業であり、そこで働いていく覚悟を持っているので、中小企業の方が働きたいと考えることはできません。しかし、上記にもあるように中小企業にも強い関心があります。そのため、就職先で思ったような仕事ができなかったり、そこよりも魅力的な企業、仕事があれば転職することもあるかもしれません。そのため、今回は「どちらかと言えばそう思わない」にさせて頂きました。
64	1	4	法	3	大企業、中小企業といった枠組みでの分別ではなく、企業の中身をみて働く会社を選びたいので。
65	1	5	商	3	
66	1	5	GC	3	企業の規模ではなく、自分が将来的にキャリアを通じてどう成長したいかを就職先を検討する際に重要視するため。個人としてはオーナーシップを若手から発揮して、自分の成長を他者に還元できるような仕事をしたいため、従業員数の規模感で言う大手企業よりは中小企業の方が一社員のオーナーシップは大きくなるのではないかと考えます。そういう意味では自分のタイプとして大手企業というよりは、従業員数や規模感が小さくてもしっかり個人としてバリューある仕事を企業の価値として創造できる企業が合うのではないかと思います。ただ、それが絶対的に大企業である必要も中小企業である必要もないと考えるため、どちらとも言えないという回答にしました。
67	1	4	商	3	バンドで食べて行く決めていたため企業に就職することは一切考えていないからです。ただし、もし私が企業で働くことと決めていたのでしたら自分の好きなこと、やりたいことができる企業で働くことになるでしょう。なので、中小企業だと大企業であることには一切拘ってはおきません。
68	1	4	法	4	もちろん大企業のほうが経済的にも大規模な事業が行うことができたり、給料が良かったりというイメージがあります。しかしながら、中小企業でも例えば、NASA等の国際的大規模なプロジェクトに参加している会社もあったり、環境のために新しい製品や技術を開発している会社があったりと大企業にひけをとらないところもあります。そして、いまの時代大企業から潰れないリストロームはないと言いきれません。また、大企業は人数が多く仕事や責任などが分散してしまします。なので、私は人数が少ないながらも中小企業で責任のある仕事をして、自分自身も会社と共に成長していきたいと思っています。
69	2	4	法	2	中小企業であれば、少人数制のため、一人一人の仕事は重く、責任は増しますがその分やり甲斐を感じることができず、さらに、大企業ではなかなか通らない意見が中小企業では通りやすかったり、仕事に自分の意思が反映されやすく、自分のやりたいことをできる点では中小企業の方がいいと思います。しかし、いくらやり甲斐があり、自分のやりたいことができたとしても倒産してしまつては意味がありません。実際、中小企業は数え切れないほどありますが、その多くが倒産しているというのが事実です。中小企業にいいところもたくさんありますが、景気に左右されやすく不安定なので、やはり安定さをとってどちらかと言えば大企業だと思います。さらに福利厚生面でも、一概には言えませんが中小企業は福利厚生の管理が行き届いておらず残業代が支払われない、有給が取りにくいなどの問題が多く発生しているイメージがあります。その点、大企業であればそのようなことがあればニュースに取り上げられやすいため慎重になり、福利厚生面から考えても働きやすい環境が整っていると思います。そのため、私はプライベートと仕事、どちらも充実させたいので大企業だと思います。

整理番号	性別	学年	学部	問1	問2 「問1のように答えたのはなぜですか。その理由をできるだけ詳しく教えてください。」
70	1	4	経済	1	中小企業で働いた場合、自分が関わる事業の規模が小さくなってしまふ可能性が大きくなってしまふためです。私は働くのであれば、常にやりがいを持って働きたいと考えています。その理由は私はやりがいを持って取り組んだ方が効率良く仕事ができることと今までの部活動での経験から感じました。そのため、今後40年近く関わることになる仕事においてもやりがいをもって仕事をしたいと考えています。そのように考えた時に、私がやりがいをより感じれるのは、自分がより多くの人の幸せに貢献できた時でした。そのため、より多くの人の幸せに貢献することのできるのは、より事業の規模が大きい方がいいと考え、大企業志向に考えました。

資料2 (問1・問3)

整理番号	性別	学年	学部	問1	問3 「あなたが働きたいと考える中小企業とはどのような中小企業ですか。できるだけ詳しく教えてください。」
1	1	5	商	3	私が働きたい中小企業は、世の中のどこでも存在する企業です。つまり、最終的なものではなくても、世の中のどんな商品の中には存在しているものを作る会社です。光があれば、影があるように、自社の商品を作ることができれば、最もいいですが、それができない場合は、我々が作ったものがないければ、完成ができないと言われるように、大きな役割ができる企業で働きたいです。
2	1	4	商	2	もし中小企業で働くのであれば、福利厚生がしっかりしており、財務的な安定感があるのは必須である。また社会に必要不可欠な物を作っていたり、サービスを提供している企業であれば、社会貢献もできるのでベストである。
3	1	4	経済	1	外注ではない消費者とダイレクトにやり取りをする最終製品を製品する企業。
4	1	4	商	4	
5	1	5	商	1	「世界市場を視野に入れて活動している」「新しいことが大好き」「個人の裁量権が大きい」以上3つの理念を持つような会社に入りたいです。まず、常に世界市場で戦う意欲があり、実際に行動している企業でないと、外資の参入も激しい日本市場では不安です。次に、どんなことでも新しいものを社内に取り入れる文化がないと生き残れないと思います。最後に、離職後のキャリアのために自分の意思決定が結果に直結する仕事をしたいと思います。
6	1	4	経済	2	現在の就職先を選択したときの話になりますが、人数が少なく一人当たりの裁量が大きく、下の意見が取り入れられるような会社を目指して志望しました。いわゆる下請け企業だと大企業の動向に左右されると考えたためベンチャーのような中小企業に就職したいと考えました。
7	1	5	法	2	自分がやりたいと思う仕事ができる企業。
8	1	4	商	4	この技術とかこのやり方は他社に絶対に負けないという何かひとつでも自社の光るものがある企業で働きたいと考える。何か1つの技術に特化していることで、この企業が何をしていた、何を売り込めばいいのかが明確であること。そして、特化しているからこそ、その技術や業界に関して自分のなかに知識として蓄えやすいと感じる。
9	1	5	商	5	私が働きたいと考える中小企業は観光関係で旅館です。実家が旅館なのでそのためにも働いてみたいと考えています。特に私の家でも宿泊で知り合った音楽家や近所のいろいろな団体の人とともに旅館で小さいイベントを行っております。そのため、私もそういう風に地域に貢献できたり日本の文化に関係する中小企業に働いてみたいです。
10	1	5	法	4	私が働きたいと考える中小企業は M&A などを行い、企業の価値を高める業務を行う企業である。昔、私の祖母は自営業で豆腐屋を営んでおり、商店街にはその他にもたくさんのお店が並び人の憩い場として機能していたが、後継者問題や過疎化により、店はどんどん潰れていったが、私は資金が一番大きな原因だと感じた。これらの経験から企業の価値を高める仕事に就き、社会に貢献したいと考えるようになった。以上から M&A などの財務アドバイスを通して、成長支援を行える中小企業で働きたい。
11	1	4	商	5	宣伝や広告などの企業
12	1	4	経済	2	私が働きたいと考える中小企業は、独自の技術力を持っており、長年の経済的な不況などを乗り越えてきた経営的なノウハウにも富んだ中小企業です。
13	1	4	法	2	もし中小企業で働くならば、事業内容が個人的に興味深い企業であると思われる。例えば、その事業内容が地域に根ざしている企業である。
14	2	4	商	3	業界のシェアが一位であること。大企業の下請け会社としてシェアを誇っている企業で、将来性があること。
15	1	4	法	3	私が働きたいと考える中小企業は、やりがいの大きさであると思う。そのやりがいとして、授業で話されていたような生き残り策をダイナミックに行なっている中小企業である。最終製品を作っている会社は仕事の難易度は高いと授業で教わったが、その仕事のやりがいの大きさは魅力的であると思う。
16	1	4	経済	3	私自身が働きたい中小企業とは世の中のためにしっかりと貢献している企業という点と福利厚生がある程度は整っている企業です。
17	1	4	経済	1	先進的な事業を行い、中小企業であるからこそ行える事業活動。
18	2	4	商	4	働く会社のある地域にすんでいる人々の暮らしが良くなるような地元中小企業で働きたいです。暮らしが良くなるの定義は、その地域に住んでいる人が地元中小企業の生産物により日常生活が便利になったり、人々の需要にあった供給があるということとをさしています。例えばゲスト講師の授業で、三輪タイヤの例がありましたが、オイルタンク運び機はタンクの資源問題や、石油の値段も上がっている現在、需要があるかつ、人々の暮らしをよくした生産だったと考えます。この企業の他にも観光地に人を呼び込む事業開発や、地元特産品を使った新しい商品開発などは、地元の企業を活性化しその人達の収入が増えることで地域から生活が豊かになります。現在問題視されている経済問題、環境問題などは、中央政府の政策も大事ですが、地元企業からの改善が大きな変化をもたらすと考えています。人々の生活と密接し、人々の暮らしから生まれる問題に対処策を考えていける中小企業で働きたいです。
19	2	5	法	3	大企業の下請けとなっただけの中小企業ではなく、中小企業同士で地域経済の発展に力を注いでいる中小企業で働きたい。また、新事業の開拓をし、商品開発を進めて、消費者の声に応えている中小企業であれば良いと思う。言い方が悪くなるが、ただ大企業に利用するだけ利用され、捨てられてしまえば、すぐに倒産してしまうような中小企業ではなく、独自のやり方で中小企業にしかできない事業をし、生き残り続ける中小企業で働きたい。大企業は、海外進出に重きを置いているのであれば、中小企業は国内に重きを置き、地域社会で幅広く活躍し、必要不可欠な企業であってほしい。そう思っているため、就職活動をするにあたって、企業を自分の目で見極めていけるよう、大企業に限らず、中小企業についてもしっかり学んで、自分が求める企業で働けることができたいと思う。
20	1	4	法	1	今ある中小企業という立場に甘んじずに常に先を見通し、そして将来は自社の製品で天下を取るのだというところを全面に押し出したという自信が現れた会社に勤めたいと思います。
21	1	5	商	3	私が働きたい中小企業分野はスポーツ商品を扱った企業で働きたいです。私自身これまで中学、高校、大学で部活動を取り組んできました。私のパフォーマンスでお世話になったのは何と言っても道具です。そこで私は将来スポーツ用品の製造に関わり、現役スポーツ選手を道具を作ることで支えたいと思っています。さまざまな種類の技術が中小企業の会社にあると思うので、その技術を生かしたいと思います。

整理番号	性別	学年	学部	問1	問2「問1のように答えたのはなぜですか。その理由をできるだけ詳しく教えてください。」
22	1	5	法	3	元請けの圧力に屈しない、独自の強みがある中小企業。
23	1	4	法	2	信念を貫いている会社。自分のやりたいことができる会社。
24	1	4	法	1	勢いのある中小企業で働きたい。勢い、というのは、その時代の流れにのったビジネスを提供しようとするような企業であり、ダイナミクスに富んでいる企業である。また、勢いがあるというのは、最近ではインターネット業界のように、等比較級的に伸びる企業であって、利益と努力が比例していくようなアナログな企業ではない。
25	2	4	商	3	問2と同様です。
26	1	4	経済	1	下請けではない会社。この一言に尽きると思います。下請けでは、一次受けなどによる中間マージンで利益がほとんどないイメージ。また、上位層による意思決定で使い捨てのごとく扱われる。下請けではない、独自技術や製品、サービスを展開している必要がある。
27	1	4	商	3	私が働きたいと考える中小企業の特徴が大きく4点ある。第1に、意思決定の速さ、風通しのよさを感じられる企業である。従業員の少ない中小企業における強みの1つに意思決定の速さがある。大企業においては部署や部門、役職のある人間が多数いるうえ、個人の力による変革も起こしにくい面があると考えられる。スピード感のない業務には不満も募りやすく、士気の低下が起こりうる。したがって、意思の伝達がしやすく、従業員一人一人の意見が反映されやすい環境での仕事は刺激的であり、それぞれのモチベーションも高く仕事ができると考える。第2に、慢心がなく、過去の成功にしがみつかないマインドをもつ企業である。1つの大きな成功に頼って変化のない企業には目的意識も希薄になり、やりがいもなくなっていくと感じるからだ。特に中小企業が生き残っていくためには、チャレンジングな姿勢が要求される場面も多く、不安定さは伴うものの、仕事のおもしろさの1つでもあると考えている。第3に、人数が少ないからこそその一体感や仕事の裁量の大きさがある企業である。従業員数の多い大企業にとっては一人ひとりの果たす役割が小さく、同士の関わりも深まりにくいのではないかと。名のある大企業においては、失敗を起こしたくないという意味でも、過去の優れたやり方のみに目がいってしまうこともあると思う。業務のほとんどを上からの指示に従って定まったやり方で仕事を進めるのではなく、創意工夫の余地が十分にある企業で働きたいと考える。第4に、地域の発展に貢献できる、またその意欲が強い企業である。すべてではないが、特に上場しているような大企業にとっては利益の最大化は外部からも求められるため、本当に注力したい部分に取り組めないこともあるのではないだろうか。一方で多数の株主を抱えない中小企業にとっては根本的な企業目的に沿って事業に取り組めると考える。地域に根付いた中小企業も多く存在し、集中的に地域の発展に貢献できることは魅力であると思う。
28	2	4	スポ健	2	地域的な企業。大きな企業を支えるような企業。自分のやりたいことがやりやすい企業。意見が通りやすい。
29	1	7	商	3	・自分自身がやっていておもしろいと思う ・ある程度意見が尊重される環境であること ・給料が多い ・アットホーム ・ブラック企業じゃない
30	1	4	商	3	1つは、安定性を感じられ、福利厚生が整っている企業。2つ目は努力し結果を残せば評価される企業で働きたいです。特に2つ目が重要と感じています。私の友人の親が中小企業を経営しており、そこで別の友人が働いているのですが、その企業はその友人とあと1人以外の従業員は全て親族であると聞きました。そのような企業では残した結果を適切に評価してもらえるのか少し疑問があります。上記のような評価に対する疑問が生まれるような企業ではあまり働きたいとは思えないので、結果に対する評価がしっかりと適切に行われる企業で働きたいです。
31	1	5	法	5	専門性をもっている。市場で勝つことに対して積極的な企業。
32	1	4	政策	2	私が働きたい中小企業の特徴は2点あります。1点目は独自の技術・サービスを持ち、業界での高いシェアを持つ企業であることです。働く企業が倒産しないことが私の会社選びの1つの重要な条件であるため、そのためにこの点をとても重視しています。2点目は若手社員の活躍により、高い成長率を発揮している企業であることです。大企業であれば若いうちから取り組める仕事や役職には制限がある傾向があり、スキルが身につくスピードも早くはないと感じます。その点、特に社歴の若い中小企業は若手社員が大きな裁量権を持っていたり、重要なポストに付いて成長できる環境がある企業が多いと感じています。こういった企業で会社とともに自己成長し、スキルを若い段階で身につけることができれば雇われている企業がどうであるかに依存せず、自らの手で安定的な人生を設計することも可能であると考えます。
33	2	4	商	2	給与がいい。 成果が目に見える。 柔軟に意見が入れられる。 すばらしい上司に出会える。 トップを尊敬できる社風がある。 明確に階級があり、昇進のステップが見える。 社員たちが会社に誇りを持っている。 幹部が近い。
34	1	5	商	4	
35	2	4	経済	4	これから成長が見込めると思う企業。自分のやりがいを感じられる企業。
36	2	4	法	4	幹部と距離が近い。自身の裁量が大きい。企業の成長に貢献しているという自負が持てる。社会への貢献性を感じる。社長や社風が魅力的。
37	1	5	商	2	福利厚生がしっかりとっていて、倒産する危険性のない、やりがいのある仕事ができる企業
38	2	7	商	4	
39	2	4	社会	4	中小企業は、給料面で不安定（もしくは低い）である会社が少なくありません。給料が上がりにくいところが、所属意識を持ち自信を持って仕事できることにつながらないような気がします。なので、大企業と給料格差を減らして欲しいです。
40	1	4	経済	2	中小企業で働きたいと思うときは、自身がトップあるいは経営幹部である中小企業、である。所帯の小さな企業であるならば自身の意見大いに反映され、また実行に移されるような環境で働きたい。
41	1	4	法	5	
42	1	4	経済	5	給料が高く、休みが多い会社。
43	1	4	政策	4	私が働きたいと考える中小企業は、製造業、ものづくり企業です。食品、その他製品など部類は特に問いません。その企業が持つ伝統的なもしくはオリジナルな技術によって生み出された製品を、より多くの人に知ってもらい、食したり、使用したりしてもらうことを生業とするような仕事がしたいです。

整理番号	性別	学年	学部	問1	問2「問1のように答えたのはなぜですか。その理由をできるだけ詳しく教えてください。」
44	1	5	商	4	企業の分野としては、他社他国には無い技術や資源を競争優位の源泉として持っているような科学系もしくはIT系の中小企業、会社の中身としては、組織能力の基盤として社員一人一人が同じ目標に対し同じく足並みを揃えるような会社理念と行動指針を持ち、トップの経営者が情熱的であり会社の文化的な役割を担っているような企業で働きたいと思います。確かに数多く存在する中小企業には人材派遣や広告系などの業種がありますが、倒産率や今後のネガティブな業界予測などを考慮すると、今後、生き残っていく、更に競争力を構築して存在感を増し、また、多分野連携においてより有効な資源となって更に新しい価値を創造して行けるのは他社他国には簡単に模倣できない技術や資源を保有する企業だと考えます。加えて年々ボーダーレスになっていくビジネスの中で越境の価値、需要創造、市場拡大を可能にするのは、「この企業のこの技術」が必要であるというブランドおよび製品戦略にあるのではないのでしょうか。国内市場が益々狭隘化していく、複雑化する市場ニーズの開拓への挑戦と国外市場における需要の獲得は明らかに重要です。私が将来、働きたいと思うのはそのような市場平均より高い競争力を構築するためには収益力、4P、QCDFの根幹となる強固な組織能力が必要不可欠であると考えます。これは独自の生産方式やサービス提供手法、それを可能にする社員の行動指針、またその基盤になる会社の理念や文化とピラミッド型の構造理論ですが、この基盤が固まっており社員一人一人が生き生きと熱心に、そして互いに目標を目指せる活発な社風や、経営者の情熱が全員に伝わり一丸となる文化を有した企業で働きたいと強く思います。また私が会社の一翼を担った時には私が主体となって上記を実現したいとも思います。
45	2	4	商	3	私は自分のスキルを最大に活かし、自分の努力を直接感じることができると感じる中小企業で働きたい。大企業ではどうしても長年の社風や、自分の直接的なキャリアが優先されがちだと思う為、自分の能力を最大限に感じることができると感じる中小企業は魅力的である。また女性として、出産や子育ての面やその他福利厚生が整っている企業が良いと思う。またこれから更に高齢化が進行していく為、家族の認知症などに対する制度なども整っていけば、さらに魅力的な企業だと思う。
46	1	4	法	3	中小企業であることを生かしている会社。小回りなどだけでは体力ある大手の子会社との競争に勝てないだろうと考えられ、その中で存在感を出せるように日々努力している企業でかつ福利厚生や賃金休日日数が大会社と変わらないまたは良い会社。
47	1	5	商	1	中小企業で働きたいです
48	1	4	経	5	評価制度が整っている
49	2	4	経済	3	福利厚生が整っている、やりがいがある、直接社会貢献できる企業。
50	1	4	法	3	中小企業基盤整備機構の話聞いたので、4つの支援策のどれかを行っている企業で働きたいと感じる。他に労働環境などを考えると残業代が支払われるところや労働時間をきちんと守ってくれるところを希望する。大企業であっても電通での過労死問題があったりしたので、これらを重視したいと考えた。
51	1	4	経済	3	福利厚生が充実していること、多くの大企業との取引があること、自分で考え行動できる会社であること、世間に知られている会社であることです。
52	1	4	商	5	福利厚生がしっかりしていて、どんどん上を目指そうという気持ちのある企業。
53	1	5	法	3	2点あります。1点目は自分が社員として働くならですが、その会社が技術力や新規性で世界的な評価が高い中小企業なら働いてみたいと思います。理由は、一社員としても誇り持って働くことができ、社会に世の中に大きく、深く貢献しているの自覚も持って働くことができるから。また専門的な知識を得ることができると思うので、次につなげていく働き方が可能だから。そしてそのような会社で働いている社員も生き生きと仕事をしてそうだから。2点目は自分が経営陣として働く場合、創業まもない(スタートアップに近い)、また業績が低迷しつつある中小企業で働きたいです。単純に個人のビジネススキルが身につくから。
54	1	4	経済	1	働きたいと思わない。
55	1	5	法	1	石油開発、石油の調達という分野において海外企業に対抗できるとする技術力、交渉力を有し、これらの事業を行ううえで不可欠な日本政府との信頼関係を構築できている。また、近い将来までにはそれらを持つ可能性が高いと考えられる企業です。
56	1	4	商	3	自分のやりたいビジネス、またその企業の成長能力つまり将来性、意志決定のスピード感の速さ、これらの面を総合的に考慮し、その水準の高い中小企業で働きたいと考えます。まず働くうえで私がやりたいと感じるビジネスでない限り、一般的な大企業と中小企業を比較したうえで、給与面等々考慮すれば、個人的には中小企業で働くメリットを見出せません。そこで、大企業の出資する会社・子会社・関連会社、新発のベンチャー、老舗の事業会社など形を問わず、その事業の魅力や将来的なビジョン、ビジネス環境に対し、魅力を感じるかどうかを考えます。次に自分が働いていくうえで、その企業が行うビジネスに生き残っていく能力がなければ、働くことへの魅力が失われてしまいます。つまり、その企業が現在また将来の市場における競争力を有していなければ、働きたいとは思いません。この点においては、その企業が持つあらゆる資本が市場において、どれほどのポジション、役割を担っているかを考慮していきます。そして意志決定のスピードに関しては、中小企業ならではの規模感であるメリットを活かし、企業・事業を成長させていくために、あらゆる決断がどれほどのスピードでなされるかを見ます。判断の観点において、速いことはもちろんのことその決定が正しいのかも考慮します。他にもさまざまな考慮する点がありますが、以上に挙げたような点を、特に重視し、私は働きたい中小企業を選別します。
57	1	4	商	4	他に先駆けて先進的な事業に取り組んでいる企業。
58	1	4	商	1	
59	1	4	商	2	単なる下請けではなく、新事業への挑戦をしていたり、異業種の中小企業と提携して新しい価値を生み出している等、その中小企業にしかできないことをしている企業です。
60	1	4	商	4	まず、社員が自分たちの仕事に誇りを持っていること。仕事だから、決まっているからという理由で働くのではなく、自分のしていることは誇れることだ、社会に役立っていると感じながら働いているからという理由で働く。また、感性的なもの、ワクワクを大事にする企業。上司だけでなく、部下からのアイデアもおもしろそうであれば積極的に採用をするようなフレキシブルな企業で働きたいと思う。
61	1	6	商	2	中小企業で働きたいと思わない。
62	1	5	商	5	自分だけでなく社会に誇れる武器があり、そのために自分の労働力を惜しまないと思えるような企業
63	1	4	法	2	私は日本や世界に貢献できるような企業で働きたいと考えています。そのため、大、中小関係なくそのような企業であれば働きたいと考えています。また、できる事ならそれを自らの力でできたと実感できるような仕事ができるような企業が良いです。
64	1	4	法	3	他社には無い特徴を持ち、魅力のある中小企業。
65	1	5	商	3	
66	1	5	GC	3	一番化ができていない中小企業。中小企業が大会社の真似をして同じようなビジネスを行っても、経営資源の差からすぐに淘汰されてしまうため、ビジネスとして幅広く展開していかなくとも、大会社や競合他社にはない何か1つ自分たちの強みを持っている中小企業は魅力的だと思います。自分たちの強みを理解して、その強みを他者に追随されないくらい磨き上げ、その分野では圧倒的に一番の企業はお客から支持されるであろうし、その地域・業態で一番店であり続けられると思います。その点が中小企業の良さであり、大会社とは違ったビジネスのアプローチだと思います。
67	1	4	商	3	いつでも会社の社長さんに気軽に意見できる環境にある中小企業です。自分の意見1つで会社のあり方を変えることができるチャンスがあると考えるだけで仕事に対するモチベーションもかなり変わってくるはずです。

整理番号	性別	学年	学部	問1	問2 「問1のように答えたのはなぜですか。その理由をできるだけ詳しく教えてください。」
68	1	4	法	4	私は新人でもフォローしてくれながらも仕事を任せられ、また企画や挑戦を積極的に提えてくれるような企業で働きたいと思います。 そして、どんな形でも人々のため社会のために役に立ちたいと皆が考えてる会社に就職したいと思います。 また、将来へのビジョンがしっかりとあり、会社と共に自分自身も成長していけるような企業が良いです。
69	2	4	法	2	私はプライベートと仕事、どちらも充実させたいと思っているため、一番は働きやすい制度、環境が整っている中小企業です。最近では女性も育児をしながら働く人が増えています。しかし、育児をしながら働くためには育児休暇、有給、産休などさまざまな制度が整っている必要があります。さらに育児期間を終えて、女性が働きに戻った際に育児前と同じように働ける環境作り、周りの配慮などさまざまな環境整備も必要不可欠です。そのような条件全て揃って働きたいと思える会社だと言えます。やりたいことができる会社であることも大事だと思いますが、やはり働いていくうえでプライベートを充実させることができなければ働き続けることはできないと思います。自分の能力を100%発揮して働くためにはまずは福利厚生がきちんと整っているということが必要です。さらに、制度が存在しているだけで誰も使えなければ制度がある意味がないので、実際に活用することができる、ということが大事だと思います。このような点から考えて、私が働きたいと考える中小企業は、福利厚生が整っており、実際に活用されている企業です。
70	1	4	経済	1	独自性が強く、多くの人の幸せに貢献できる会社。独自性が強くあるべき理由は、企業の持続性が高く、会社が潰れることがないと考えたため。また、多くの人の幸せに貢献できるを選んだ理由は、その場合、自分がやりがいを持って仕事に関わることができると思ったため。